

第 8 章

資料編

1 現況データ等

(1) 長岡京市の地勢

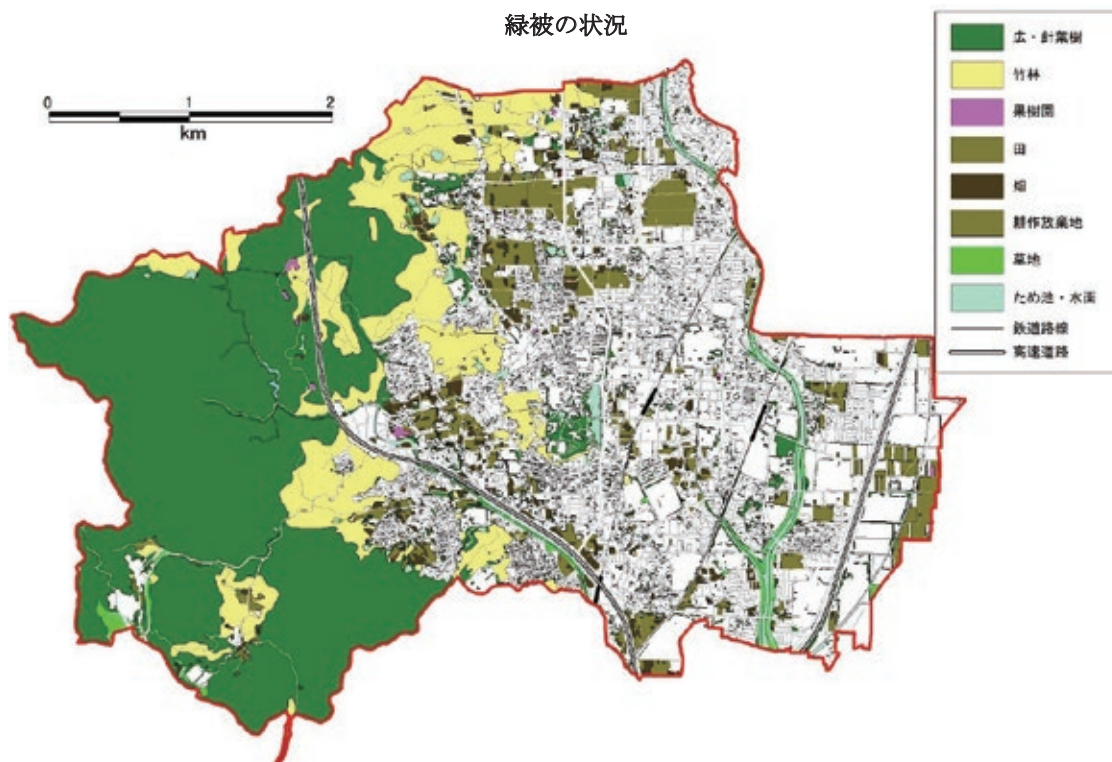
約1,500年前に弟国宮（おとくにのみや）が置かれ、1,200年余り前には長岡京の都が置かれた歴史あるまちです。

長岡京市は、京都盆地の南西に位置し、北は向日市・京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山を境に大阪府と接しています。東西約6.5km、南北約4.3kmと東西に長い長方形をなしており、総面積19.17㎢に約8万人の市民が暮らしています。

総面積の約4割を占める西山は、長岡京市の代表的な景観となっています。中央部はアゼリア通りを中心とする商業地、西部・北部は住宅や農業に広く利用されています。西山の山林に続く竹林では、全国的に有名なタケノコの生産が盛んです。東部には工場が立ち並び、高付加価値の先端産業が集積しています。

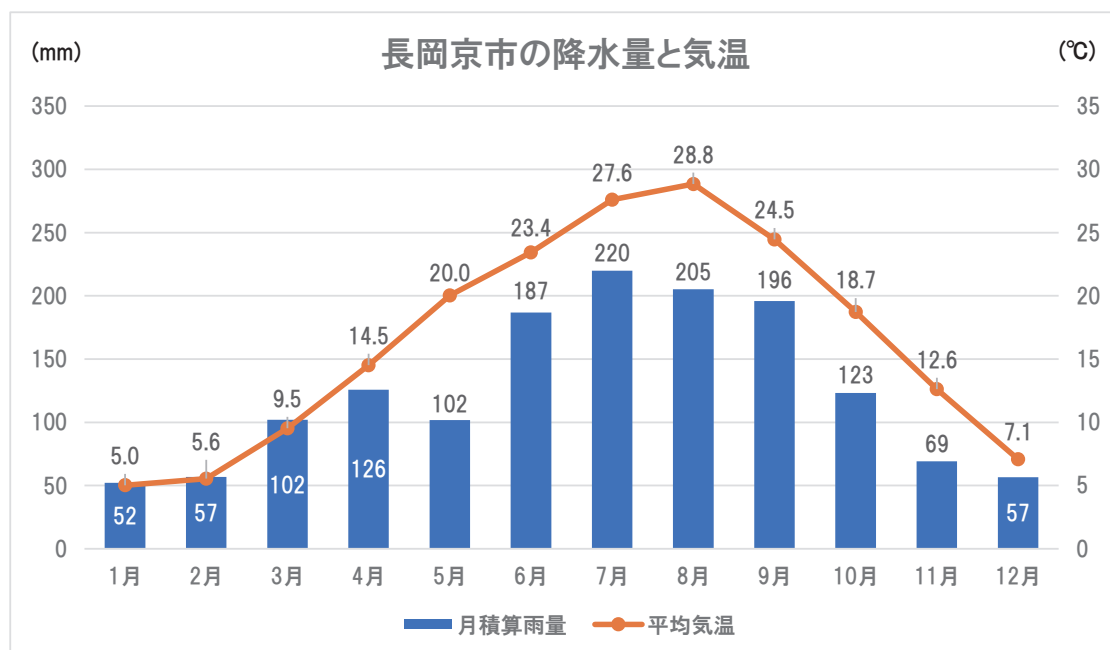
河川は、小畑川が東部を南北に、小泉川が西南部をほぼ東西に貫流して桂川に注いでいます。

交通は、JR東海道本線と阪急京都本線が、東海道本線の東側には東海道新幹線・名神高速道路・国道171号が縦走しており、交通の便に恵まれています。平成25年度には、京都第二外環状道路の全面開通に伴う長岡京ICの開通、阪急西山天王山駅の開業と、長岡京市のまちづくりにとって重要な出来事がありました。



出典：長岡京市みどりの基本計画（平成29年3月改定版）

気候は、山城盆地の特性として晴れの日が多く、京都市内の盆地気候よりも過ごしやすいとされています。雨は、6～9月で多く、12～2月で少なくなっています。

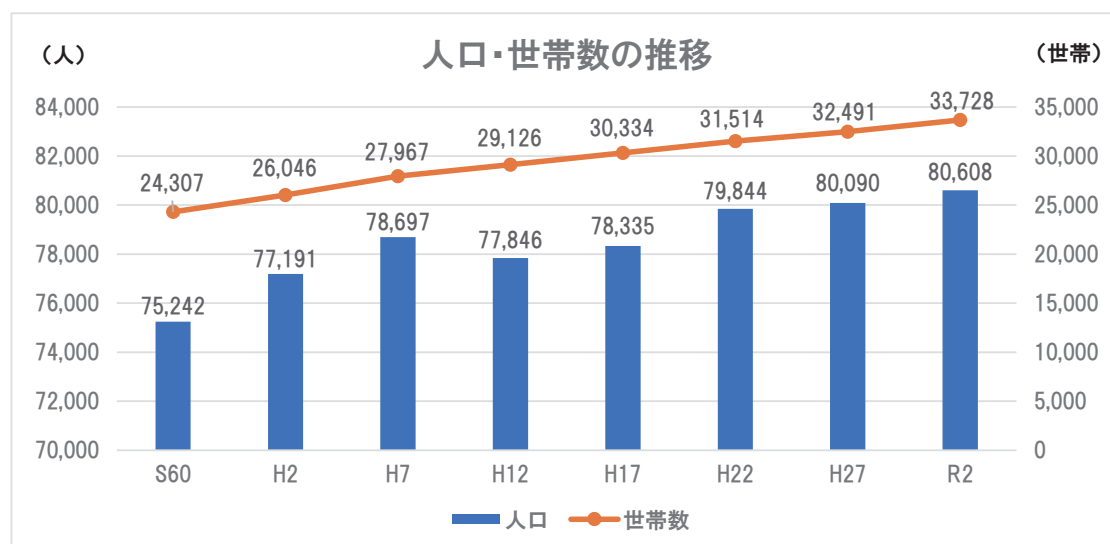


資料：長岡京消防署（平成24年～令和3年の平均値）

（２）人口・土地利用

■人口・世帯数

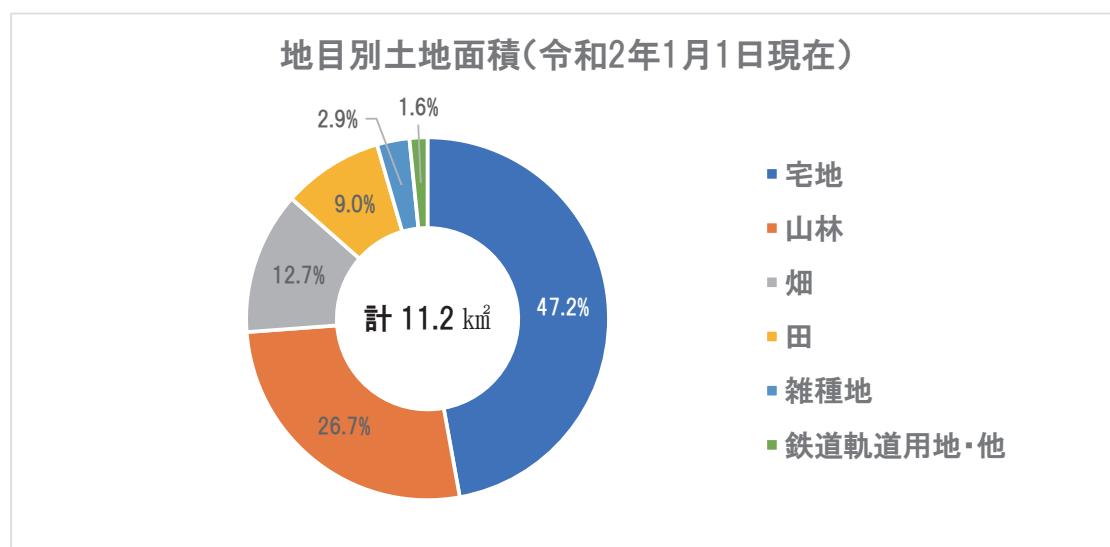
人口・世帯ともに、おおむね増加の傾向となっており、平成27年の国勢調査から、人口は8万人を超えています。



資料：国勢調査

■地目別土地面積

地目別土地面積は、宅地が最も多く、次いで山林、畑、田と続いています。

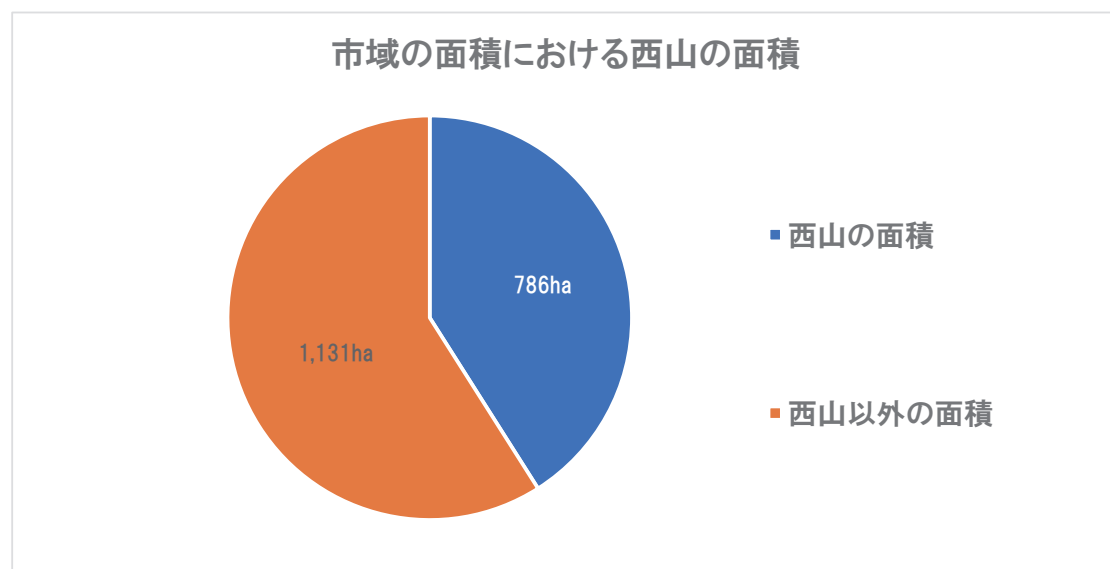


資料：市統計書（非課税土地を除く。端数処理の関係で内訳の合計は100%とならない。）

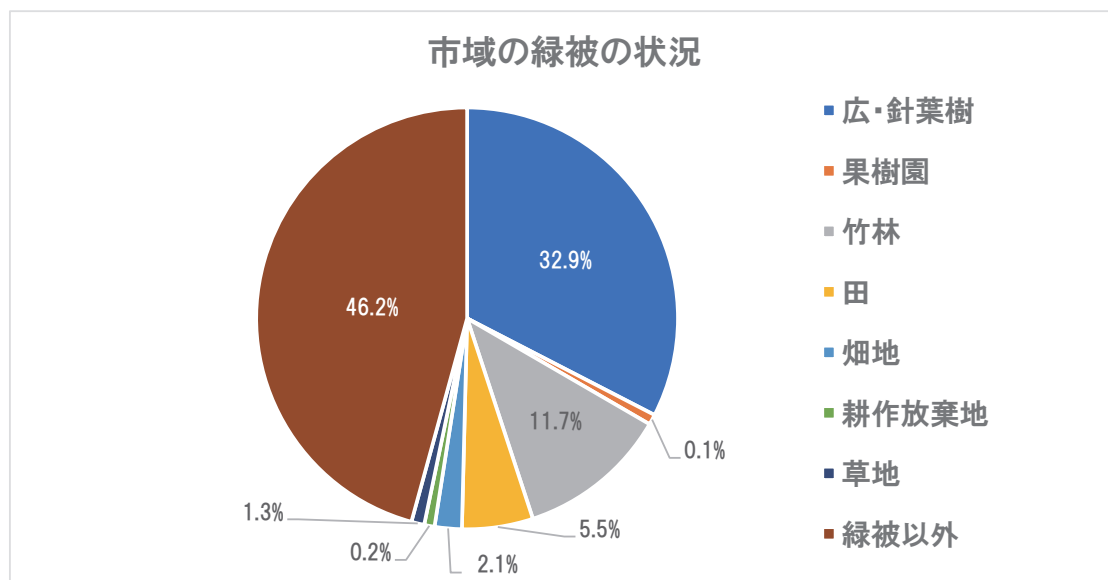
(3) みどり

■西山の緑被・市域全体の緑被の現況

西山のみどりは、市域全体の約4割を占めています。市域全体の緑被は約54%であるので、その緑被のうち7割超が西山のみどりということになります。



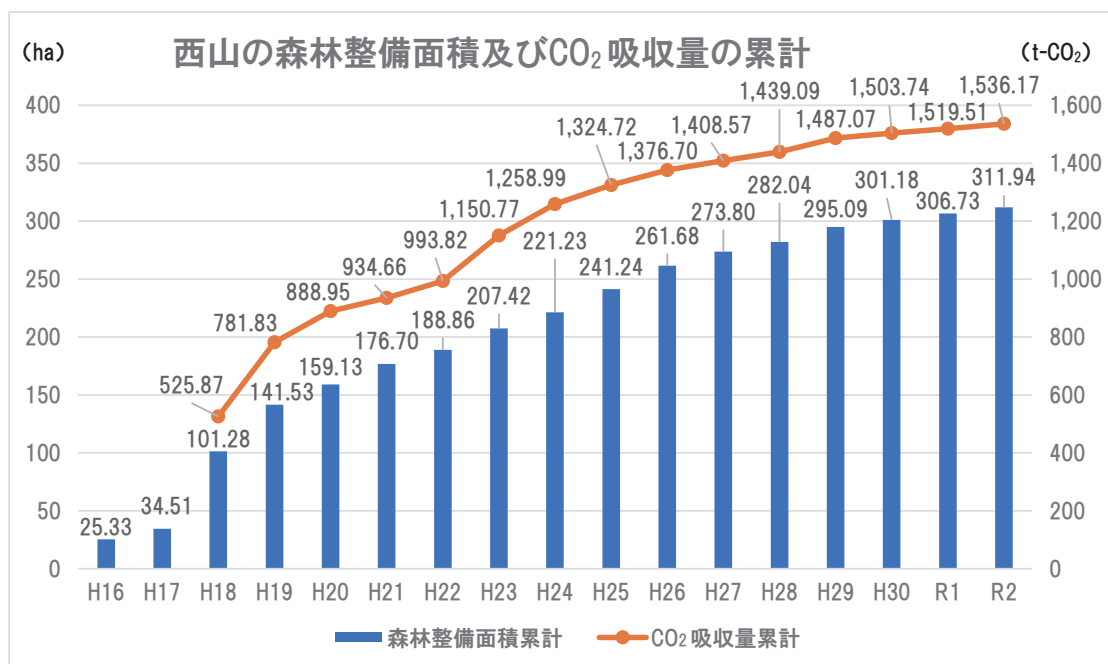
資料：京都府林業統計（令和3年版）



資料：長岡京市みどりの基本計画（平成29年3月改定版）

■森林整備の状況

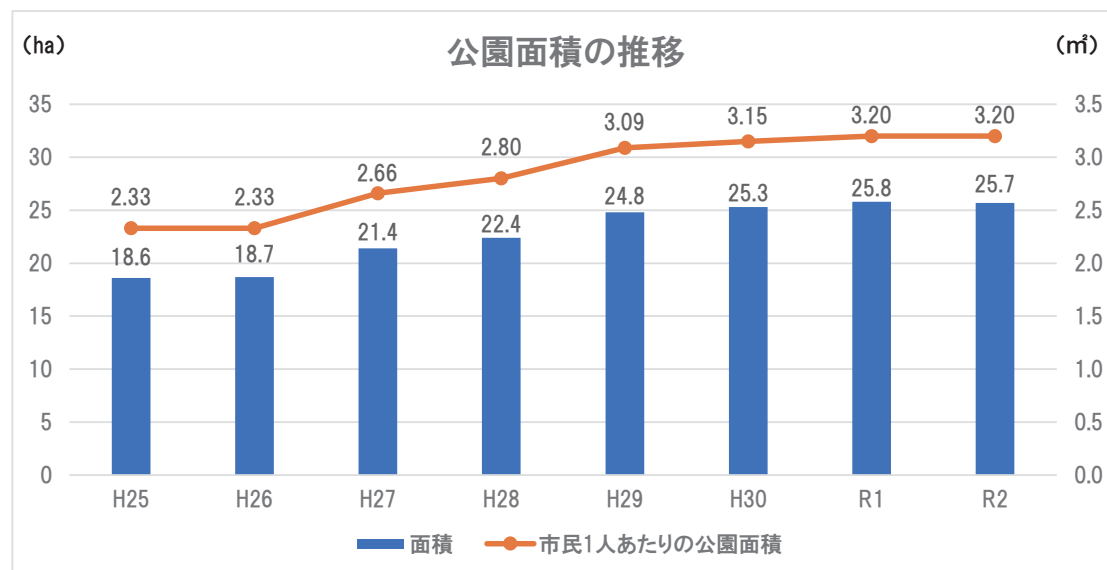
長岡京市では、平成18年に「西山森林整備構想」がまとめられ、構想に基づいた森林整備が行われています。計画的に整備を進め、森林整備面積累計、CO₂吸収量累計ともに、逡増しています。



資料：農林振興課

■公園面積の推移

公園面積の増加とともに、市民1人あたりの公園面積も遡増しています。（参考：令和元年度末京都府民1人あたりの公園面積7.85㎡）

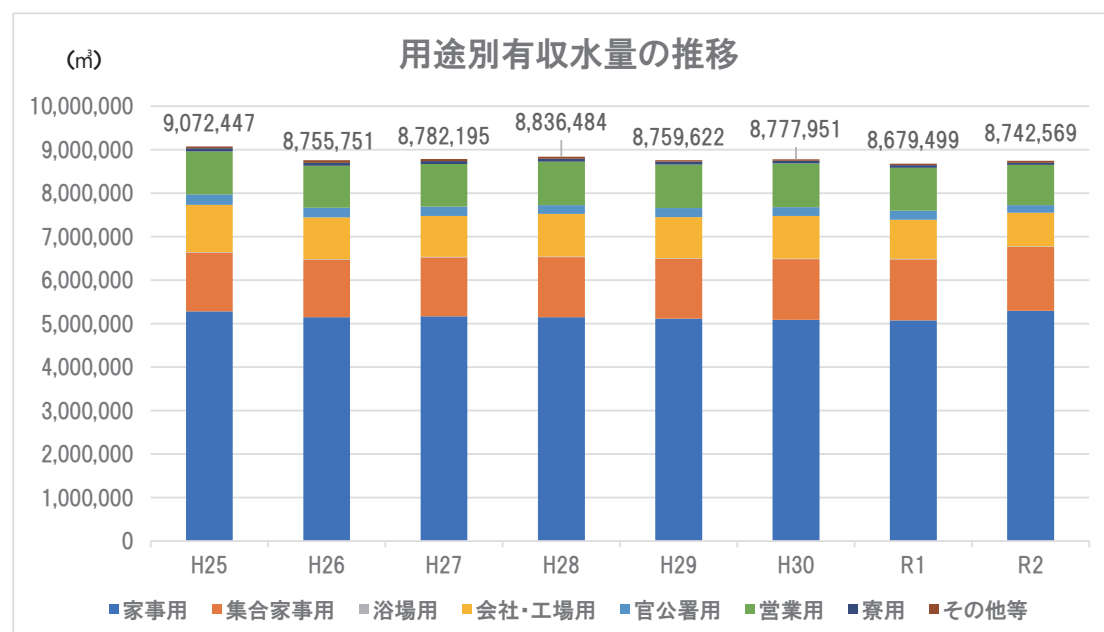


資料：市統計書（1人あたりの面積は、都市公園法に基づく公園を人口で除したもの。26ページの数値はその他の公園を含む。）

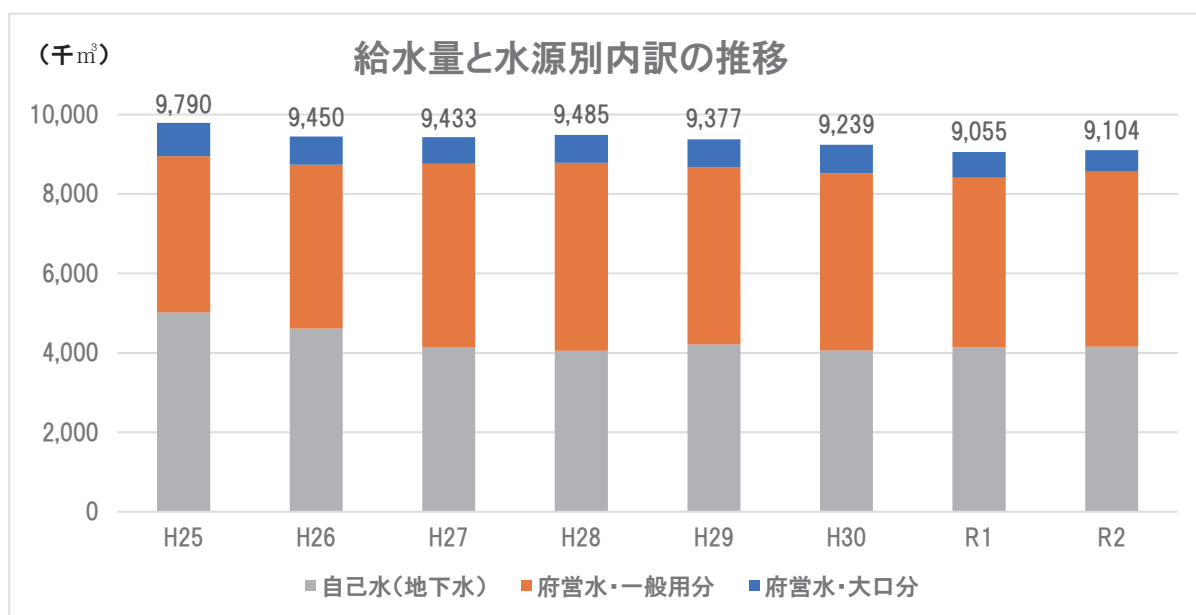
（4）水

■水道

水道の有収水量は、近年はおおむね9,000,000㎡弱で推移しています。有収水量のうち約7割強は家庭用です。また、水道水における府営水ブレンド率は、50%前後で推移しています。



資料：上下水道総務課

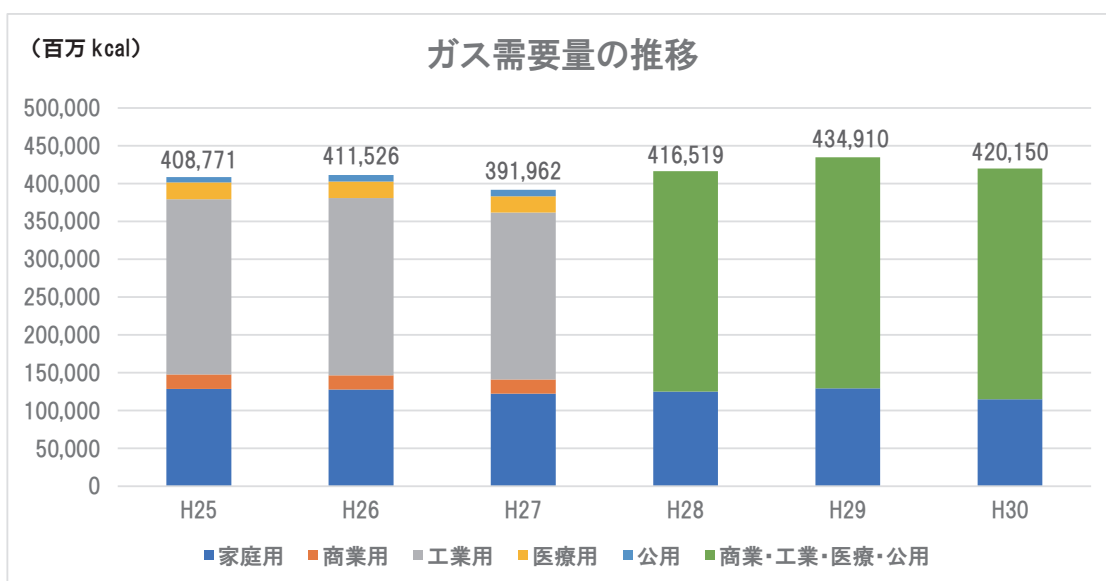


資料：上下水道総務課

(5) エネルギー

■ ガス

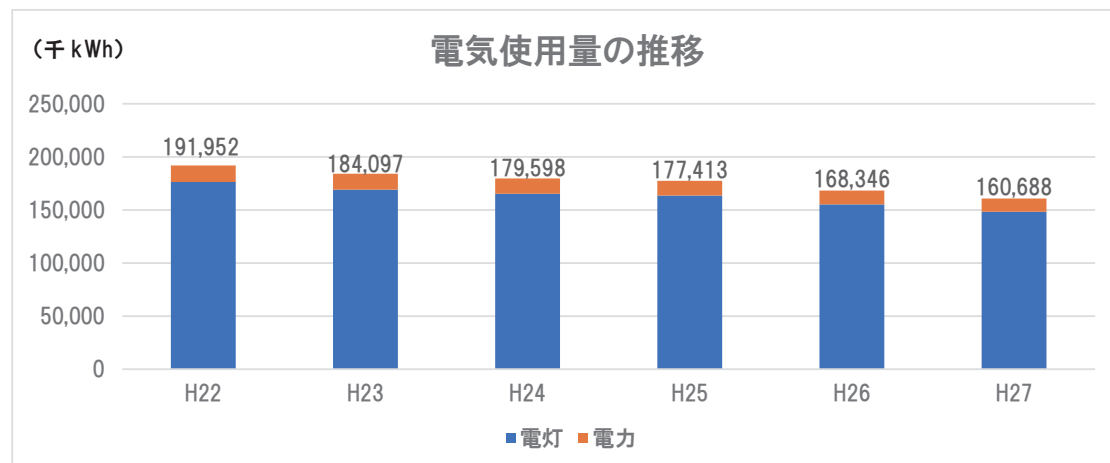
把握している近年の数値の推移を確認したところ、市域のガス需要量全体について、明らかな増加・減少の傾向は見られません。また、家庭系の割合はおおむね3割前後で推移しています。



資料：市統計書 (H28以降の商業・工業・医療・公用の内訳は非開示。R1以降はガス小売全面自由化により数値の把握困難)

■電気

平成28年度以降は、電力小売全面自由化により、市域の電気使用量の把握が困難な状況となっており、市域の温室効果ガス排出量を把握する上でも大きな課題となっています。把握している直近6年間の数値が右肩下がりなのは、平成23年の東日本大震災を契機とする節電意識の高まりが影響しているのではないかと考えられます。

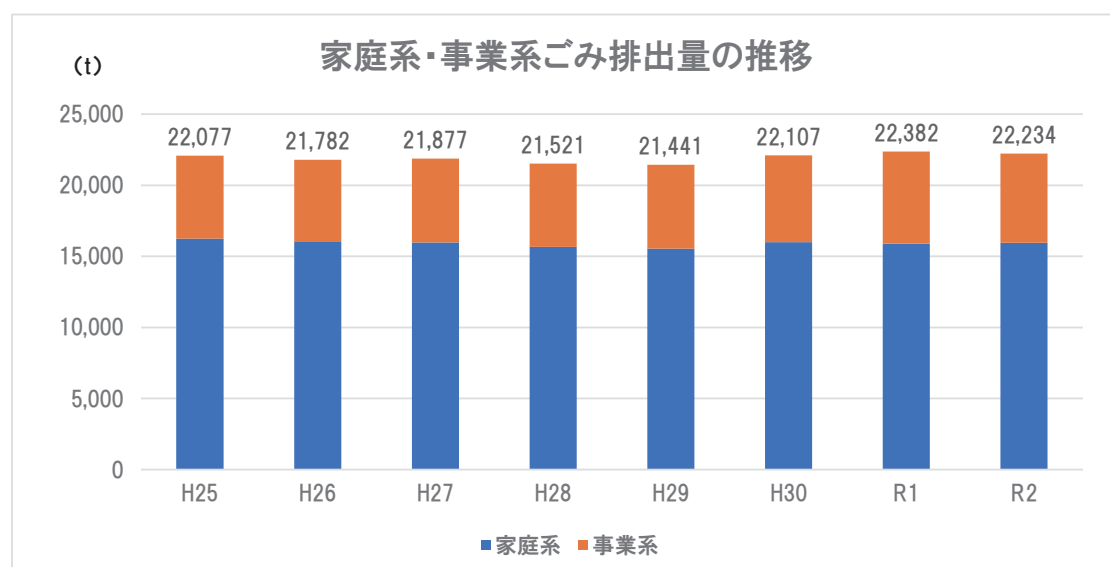


資料：市統計書（「電灯」とは、一般家庭用、業務用、街路灯、防犯灯等。「電力」とは、工業動力用を主とするもの。）

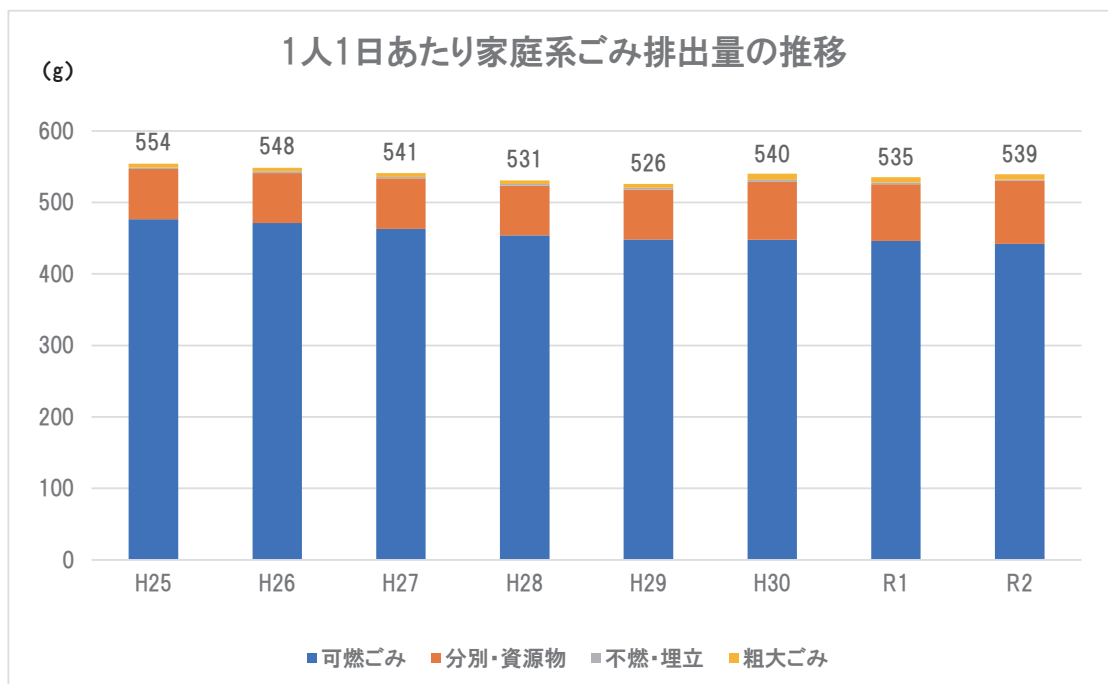
（6）ごみ

■ごみ排出量

ごみ排出量のうち、約7割が家庭系ごみで推移しています。また、1人1日あたり家庭系ごみ排出量の推移を見ると、可燃ごみで減少の傾向が見られます。



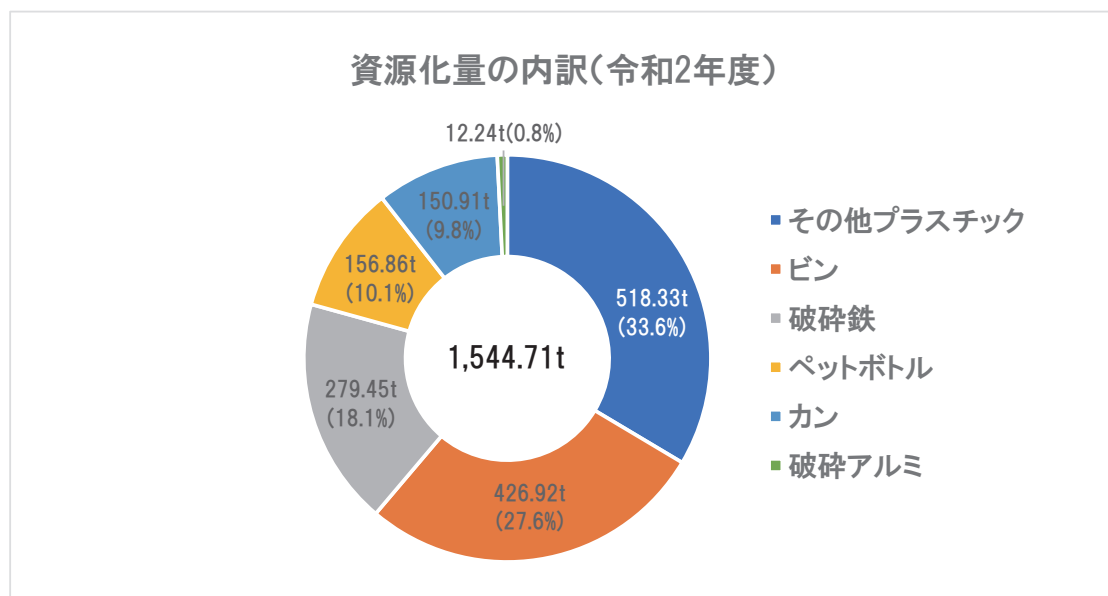
資料：環境業務課



資料：環境業務課

■再資源化

古紙類を除くごみの再資源化量（重量ベース）の内訳を見ると、最も多いのは、容器包装類に代表される「その他プラスチック」で33.6%となります。次いで「ビン」が27.6%を占めています。

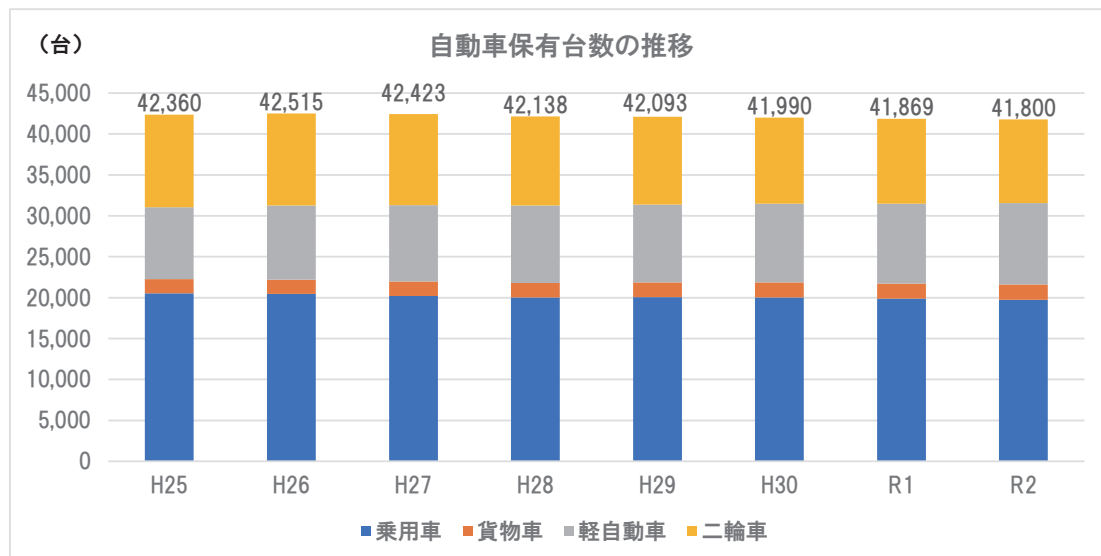


資料：環境業務課

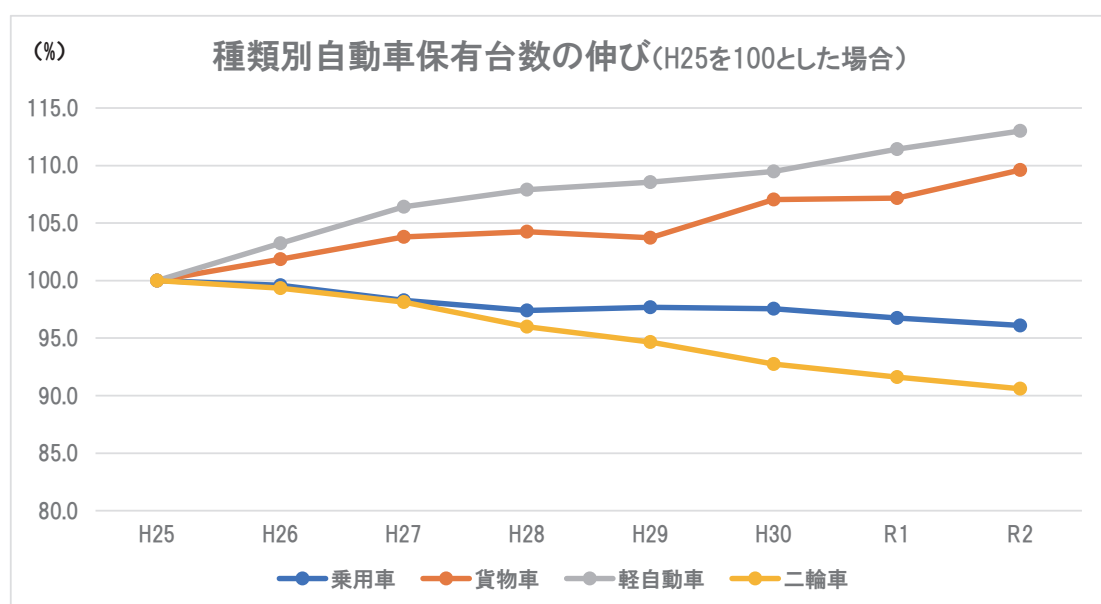
(7) 交通

■自動車保有台数

自動車保有台数は、全体で見ると、僅かな減少傾向が見られます。しかし、種類別に見ると、軽自動車と貨物車が伸びる一方で、二輪車と乗用車が減少傾向なのが見分かります。



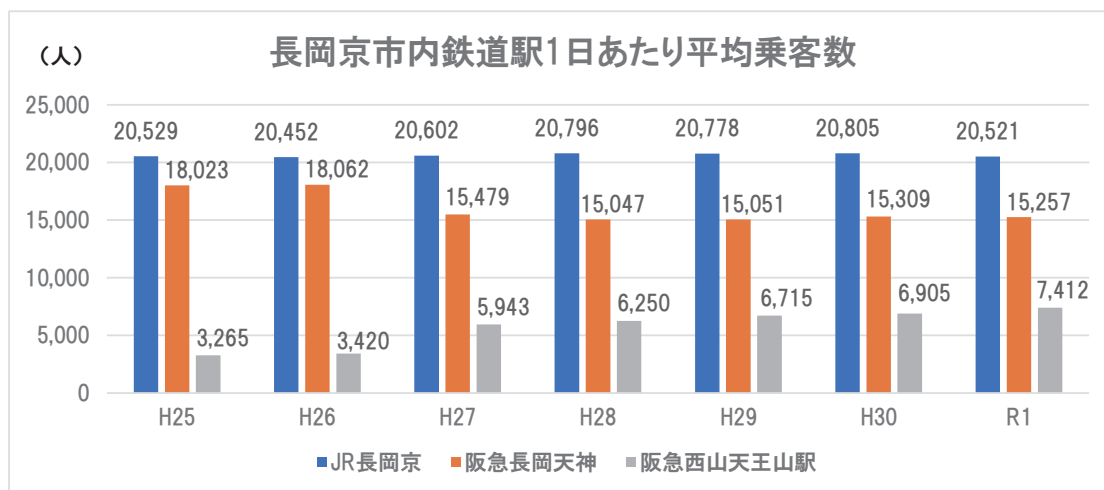
資料：市統計書



資料：市統計書

■鉄道

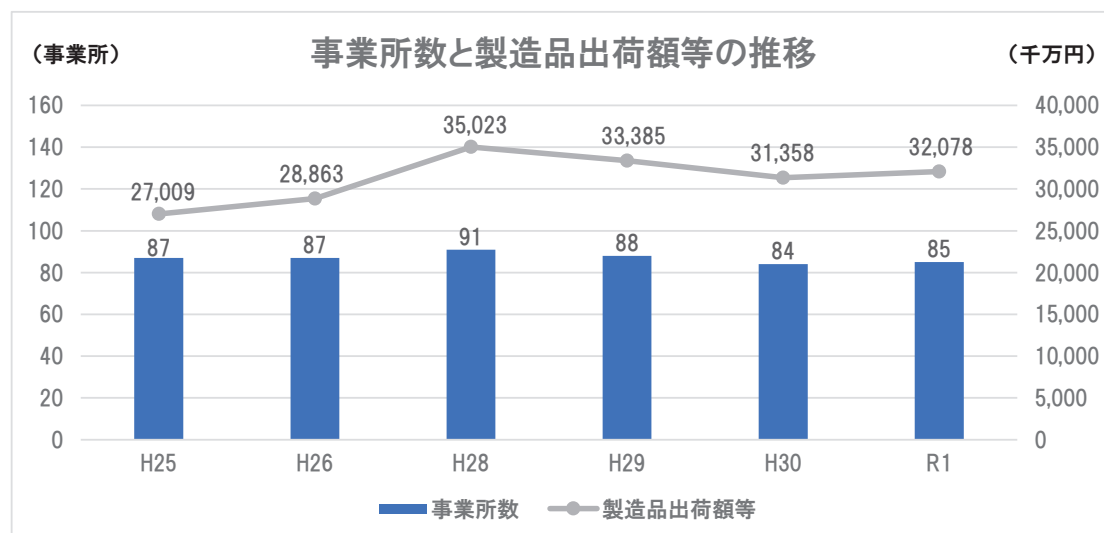
平成25年12月の阪急西山天王山駅の開業に伴い、同駅の乗客数が増えるのに伴い、阪急長岡天神駅の乗客数が減っています。



資料：市統計書

（8）工業

市内の製造業の事業所数に大きな変動は見られません。製造品出荷額等は、景気の動向に左右されやすいことから、一定の傾向は見られません。



資料：市統計書（H28のみ経済センサスの数値。それ以外は工業統計調査の数値。調査期日が異なる関係から、H27の数値にあたるデータは保有していない。）

2 温室効果ガス排出量の算定手法

第2章の2「気候変動の現状・今後」で紹介する、長岡京市域における温室効果ガス排出量の実績及び将来予測は、以下の手法で算定しています。

(1) 実績の算定手法

■二酸化炭素（CO₂）

二酸化炭素排出量は、下表のように統計数値等からエネルギー消費量を把握し、それに単位発熱量と排出係数を乗じて算定します。

部門	区分	長岡京市の算定手法（エネルギー消費量の求め方）
産業部門	農林水産業	Σ （府エネルギー消費量①）×（農林水産業市内総生産全府比②） エネルギー種（電気、ガス類、石油類、石炭類） ↳前年度の値
	建設業・鉱業	Σ （府エネルギー消費量①）×（建設業市内総生産全府比②） エネルギー種（電気、ガス類、石油類、石炭類） ↳前年度の値
	製造業	製造業内の業種ごとに下記の方法で算定した結果の総和 Σ （府エネルギー消費量①）×（市内従業者数全府比③） エネルギー種（電気、ガス類、石油類）
	資料	①都道府県別エネルギー消費統計（経済産業省） ②日本統計年鑑（総務省統計局） ③工業統計調査
運輸部門	自動車	ガソリン・軽油： Σ （近畿局消費量①）×（保有台数近畿比②） 車種（軽乗用、乗用、バス、軽貨物、小型貨物、普通貨物） LPG：府自動車用LPガス販売量③×乗用車保有台数全府比④
	鉄道	Σ （電気消費量⑤）×（延長距離比⑥）×（乗車人数補正⑦） 会社（阪急、JR西日本、JR貨物） 京都府市町村算定マニュアル
	資料	①自動車燃料消費量調査年報（国土交通省） ②自動車保有台数統計データ（[財]自動車検査登録情報協会） ③LPガス都道府県別販売量（日本LPガス協会） ④京都府統計書（京都府） ⑤鉄道統計年報（[株]電気車研究会） ⑥路線延長（地図から計測） ⑦京都府市町村算定マニュアル（京都府）

部門	区分	長岡京市の算定手法（エネルギー消費量の求め方）
民生家庭部門	電気	『長岡京市統計書』の（電灯消費量①） ※H28以降は、電力の小売全面自由化に伴い、下記のとおり算定 （府家庭における電気消費量②） ×（府家庭における電気消費量に占める市内電灯消費量の割合①） ↳H19～H27の平均
	都市ガス	『長岡京市統計書』の（家庭用消費量①） ※H29以降は、ガスの小売全面自由化に伴い、下記のとおり算定 （府都市ガス消費量②） ×（府都市ガス消費量に占める市内都市ガス消費量の割合①） ↳H19～H28の平均 ×（前年度「家庭用」消費量の割合）
	プロパンガス	（京都市2人以上世帯当たりプロパンガス購入量③） ×（世帯人員補正③）×（世帯数①）
	灯油	（京都市2人以上世帯当たり灯油購入量③） ×（世帯人員補正③）×（世帯数①）
	資料	①長岡京市統計書（長岡京市） ②都道府県別エネルギー消費統計（経済産業省） ③家計調査年報（総務省） 世帯人員補正＝（2人世帯数＋単身世帯数×[単身世帯購入費／2人以上世帯購入費]）／総世帯数
民生業務部門	電気	（府電気消費量①）×（第3次産業市内総生産全府比②） ↳前年度の値
	都市ガス	『長岡京市統計書』の「商業用」＋「医療用」＋「公用」の消費量③ ※H29以降はガスの小売全面自由化に伴い、下記のとおり算定 （府都市ガス消費量②） ×（府都市ガス消費量に占める市内都市ガス消費量の割合①） ↳H19～H28の平均 ×（前年度「商業用」＋「医療用」＋「公用」の消費量の割合）
	プロパンガス	（府エネルギー消費量①）×（第3次産業市内総生産全府比②） ↳前年度の値
	石油類	Σ（府エネルギー消費量①）×（第3次産業市内総生産全府比②） 燃料（石油類、石炭類） ↳前年度の値
	資料	①都道府県別エネルギー消費統計（経済産業省） ②京都府統計書（京都府）、長岡京市統計書 ③長岡京市統計書

【単位発熱量】

排出量の算定に用いた単位発熱量は以下のとおりです。

区分	単位	単位発熱量			
		1990 年	2007 年	2008 年	2009 年以降
一般炭	MJ/kg	26.0	26.6	26.6	25.7
コークス	MJ/kg	30.1	30.1	30.1	29.4
ガソリン	MJ/L	35.2	34.6	34.6	34.6
灯油	MJ/L	37.3	36.7	36.7	36.7
軽油	MJ/L	38.5	38.2	38.2	37.7
重質油	MJ/L	40.3	40.8	40.8	41.0
液化石油ガス（LPG）	MJ/kg	50.2	50.2	50.2	50.8

資料：「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編（平成29年3月環境省）」

【排出係数】

排出量の算定に用いた排出係数は以下のとおりです。

区分	単位	排出係数			
		1990 年	2007 年	2008 年	2009 年以降
電気	kgCO ₂ /kWh	0.353	0.366	0.299	注釈のとおり
都市ガス	kgCO ₂ /m ³	2.36	2.29	2.29	注釈のとおり
一般炭	kgC/MJ	0.0247	0.0247	0.0247	0.0247
コークス	kgC/MJ	0.0294	0.0294	0.0294	0.0294
ガソリン	kgC/MJ	0.0183	0.0183	0.0183	0.0183
灯油	kgC/MJ	0.0185	0.0185	0.0185	0.0185
軽油	kgC/MJ	0.0187	0.0187	0.0187	0.0187
重質油	kgC/MJ	0.0193	0.0193	0.0193	0.0193
液化石油ガス（LPG）	kgC/MJ	0.0163	0.0163	0.0163	0.0161

資料：電気は、関西電力のホームページ

資料：都市ガスは、大阪ガスのホームページ

資料：電気と都市ガス以外は、「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編（平成29年3月環境省）」

メタン、一酸化二窒素、Fガス（HFC、PFC、SF₆）の排出量は、基本的に全国排出量にそれぞれ関連指標を乗じて算定します。

■メタン（CH₄）

部門	区分	長岡京市の算定手法（排出量の求め方）
エネルギー	燃料の燃焼	（全国排出量①）×（当該部門 CO ₂ 排出量の全国比①）
	自動車	（全国排出量①）×（当該部門 CO ₂ 排出量の全国比①）
	石油等漏洩	（全国排出量①）×（全部門 CO ₂ 排出量の全国比①）
工業プロセス		（全国排出量①）×（化学工業製造品出荷額等の全国比②）
農業	家畜の腸内発酵	算定対象外とする
	家畜のふん尿管理	算定対象外とする
	稲作	（全国排出量①）×（田面積の全国比③）
	農業廃棄物焼却	（全国排出量①）×（田面積の全国比③）
廃棄物	埋立	算定対象外とする
	下水処理	Σ（処理施設種別の処理量④）×排出係数
	焼却	市内に対象なし
資料	①日本の温室効果ガス排出量（日本国温室効果ガスインベントリオフィス） ②工業統計表〔産業編〕（経済産業省）、長岡京市統計書 ③日本統計年鑑（総務省統計局）、長岡京市統計書 ④長岡京市資料	

■一酸化二窒素（N₂O）

部門	区分	長岡京市の算定手法（排出量の求め方）
エネルギー	燃料の燃焼	（全国排出量①）×（当該部門 CO ₂ 排出量の全国比①）
	自動車	（全国排出量①）×（当該部門 CO ₂ 排出量の全国比①）
工業プロセス		市内に対象なし
麻酔		（全国排出量①）×（許可病床数の全国比②）
農業	家畜のふん尿管理	算定対象外とする
	農地	（全国排出量①）×（経営耕地面積の全国比②）
	農業廃棄物焼却	（全国排出量①）×（田面積の全国比②）
廃棄物	下水処理	Σ（処理施設種別の処理量③）×排出係数
	焼却	市内に対象なし
資料	①日本の温室効果ガス排出量（日本国温室効果ガスインベントリオフィス） ②日本統計年鑑（総務省統計局）、長岡京市統計書 ③長岡京市資料	

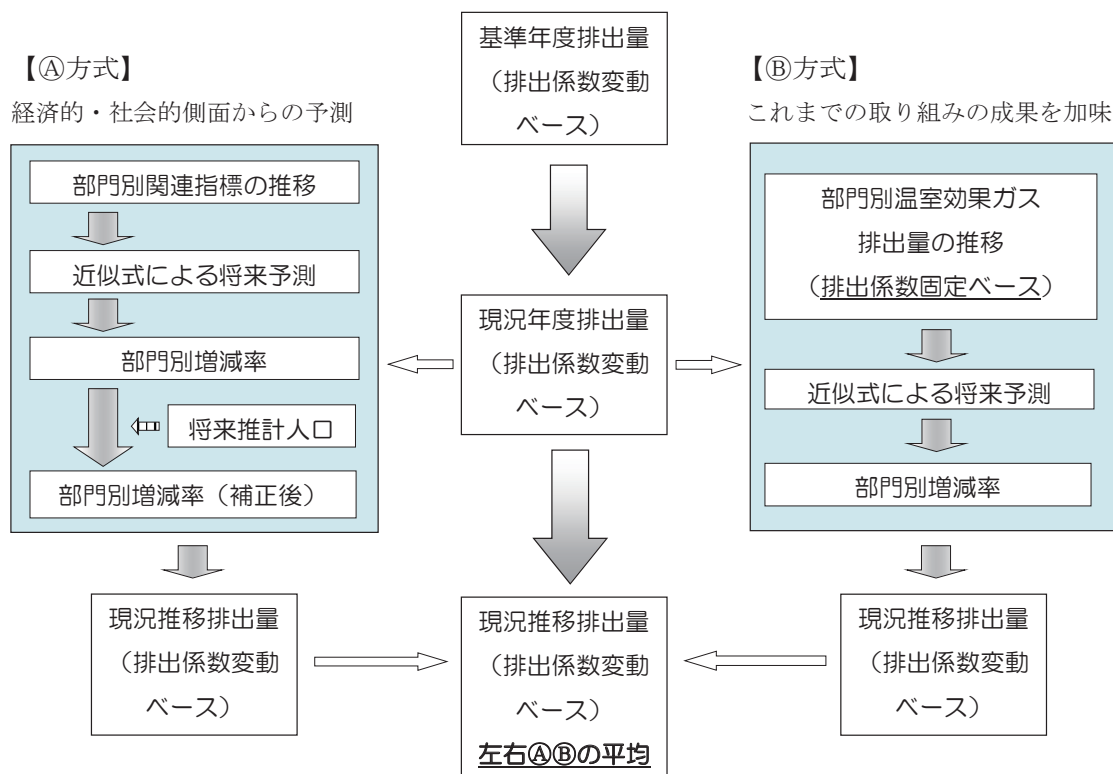
■ハイドロフルオロカーボン (HFC)、パーフルオロカーボン (PFC)、六ふっ化硫黄 (SF₆)

部門	区 分	長岡京市の算定手法（排出量の求め方）
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	製造時漏洩	市内に対象なし
	発泡	(全国排出量①) × (人口の全国比②)
	エアゾール	(全国排出量①) × (人口の全国比②)
	MDI（定量噴霧剤）	(全国排出量①) × (許可病床数の全国比③)
	業務用冷凍空調機器	(全国排出量①) × (第3次産業市内総生産の全国比③)
	自動販売機	(全国排出量①) × (人口の全国比②)
	カーエアコン	(全国排出量①) × (自動車保有台数の全国比④)
	家庭用エアコン	(全国排出量①) × (世帯数の全国比②)
	家庭用冷蔵庫	(全国排出量①) × (世帯数の全国比②)
パーフルオロカーボン (PFC)	製造時漏洩	市内に対象なし
	洗浄剤・溶剤	(全国排出量①) × (人口の全国比②)
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	製造時漏洩	市内に対象なし
	電気設備	(全国排出量①) × (電気消費量の全国比)
資料	①日本の温室効果ガス排出量（日本国温室効果ガスインベントリオフィス） ②住民基本台帳人口要覧（総務省）、長岡京市統計書 ③日本統計年鑑（総務省統計局）、長岡京市統計書 ④自動車保有台数統計データ（[財]自動車検査登録情報協会）、長岡京市統計書	

※温室効果ガスインベントリオフィスとは、地球温暖化対策の推進に貢献することを目指し、毎年の温室効果ガスインベントリ作成、国家インベントリ報告書の作成やこれに伴う国際対応等の業務を遂行するとともに、インベントリ作成に必要な調査研究やインベントリを利用した研究を実施する機関です。

(2) 将来予測の算定手法

■予測フロー



※排出係数変動ベース：温室効果ガスの排出係数を算定年度ごとに最新の数値に置き換えて算定したもの。エネルギーの使用量があまり変わっていなくても、排出係数の減少により、温室効果ガス排出量が大きく下がることもある。特に電気の排出係数の変動が大きい。

※排出係数固定ベース：排出係数の変動による温室効果ガス排出量の増減を除外するために、温室効果ガスの算定を始めた2007年度の数値に固定したもの。これにより、実質的にエネルギー使用量の増減傾向を知ることができる。

■部門別関連指標

部門	関連指標	伸びの根拠	資料
農林水産業	農家人口	四つの近似式（線形、対数、累乗、指数）の中から原則として相関係数の高い近似式による伸び率を用いる	長岡京市統計書
建設業・鉱業	建設業従業者数		
製造業	製造品出荷額等		
運輸（乗用車）	乗用車保有台数		
運輸（貨物車）	貨物車保有台数		
鉄道	JRの乗客数		
民生家庭部門	世帯数		
民生業務部門	第3次産業就業者数		
その他	人口		

■各種近似式の概要

予測手法	近似式	手法の特徴
線形近似	$y = a x + b$	単純な線形の関係を持つデータに適した直線です。分かりやすい半面、予測結果が極端に増減することがあります。
対数近似	$y = a \ln(x) + b$	データの変化率が急速に増加又は減少した後、増減率が急激に鈍化する場合に適しています。
累乗近似	$y = a x^b$	特定の率で増加する場合に最適な曲線です。定数 b の値により様々な関数になります。増減が比較的緩やかで、極端な変化をしない特徴があります。
指数近似	$y = a \exp(b x)$	データが直線以上の高い伸び率で急激に増加又は減少し続ける場合に最適な曲線です。

y : 予測値 (伸び率) x : 経過年数 (1, 2, 3, …) a, b : 定数
EXPは自然対数の底。「e」と表され、その値は、2.71828… です。

■現況年度排出量からの増減率

上記の考え方に沿って算出した現況推移排出量（追加的な対策を取らなかった場合の将来予測）の、現況年度からの増減率は以下のとおりです。

区分		現況年度 (2018年度) 排出量 (t-CO ₂)	④方式 増減率 (倍) ※補正後	⑤方式 増減率(倍)
産業部門	農林水産業	1,701	0.574	0.359
	建設業・鉱業	2,818	0.790	0.654
	製造業	63,693	1.101	0.543
運輸部門	乗用車	14,996	1.084	0.882
	貨物車	58,434	0.730	0.854
	鉄道	5,796	1.188	0.934
民生家庭部門		75,580	1.080	0.880
民生業務部門		76,181	1.182	1.039
その他（メタン、一酸化二窒素、Fガス）※20・22ページのその他排出量には、このほか、4部門に該当しない二酸化炭素が含まれる。		27,225	0.998	1.533

3 長岡京市第三期環境基本計画策定のためのアンケート調査の結果

■調査の目的

長岡京市第二期環境基本計画の期間内には、平成23(2011)年の東日本大震災後のエネルギー政策の転換や、平成28(2016)年のパリ協定発効など、環境をめぐる動向が目まぐるしく変化しました。第二期環境基本計画の策定時と比べて、現在の市民の環境に対する意識・ニーズも大きく変化しているものと考えられます。そこで、環境に対する市民の現在の意識・ニーズを知り、第三期環境基本計画で効果的な施策展開を図るための基礎資料とすることを目的に、長岡京市在住の市民、市内の市民活動団体や事業者を対象にアンケートを実施したものです。

■調査方法

郵送による送付・回収

■調査期間

令和2年9月15日(火)～令和2年9月30日(水)

■調査対象

【市民アンケート】

令和2年8月1日現在の長岡京市住民基本台帳から無作為抽出した16歳以上の市民2,000名

【団体アンケート】

長岡京市を活動拠点とし、環境に関する活動を行う団体34件

【事業者アンケート】

業種ごとに無作為抽出した、長岡京市に事業所を持つ事業者70件

■配布数及び回答数

【市民アンケート】 送付数2,000件 回収数992件 回収率49.6%

【団体アンケート】 送付数 34件 回収数 23件 回収率67.6%

【事業者アンケート】 送付数 70件 回収数 22件 回収率31.4%

◎調査結果の表記について

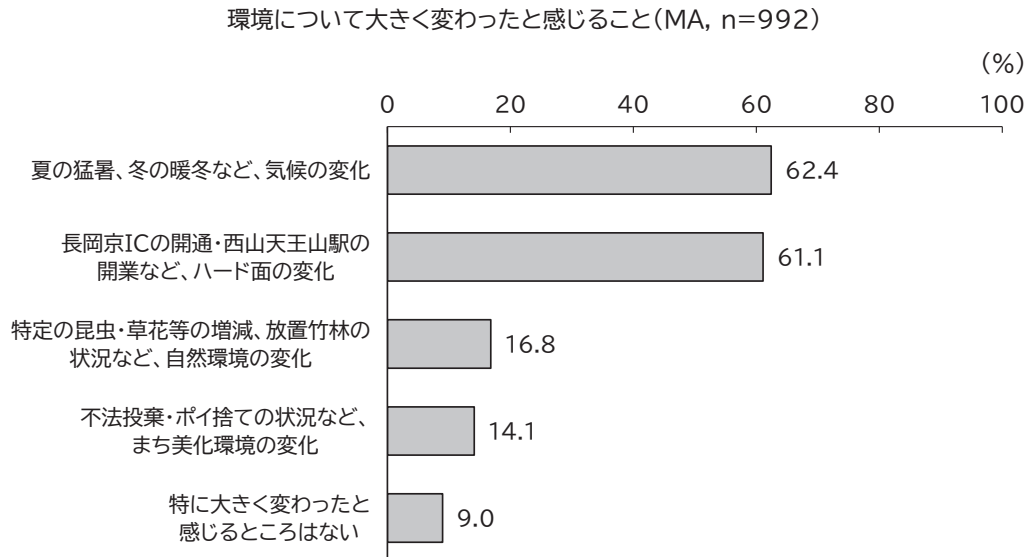
- ・グラフや表に書かれている「n=」に続く数字は、その設問の回答数です。
- ・グラフや表に「SA」と書かれている場合はその設問が単一回答、「MA」と書かれている場合は複数回答であることを意味します。
- ・百分率(%)については、それぞれの調査の回答数(n)を基数として算出しています。小数第2位を四捨五入しているため、単一回答の数字の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・自由記述の回答は、原文の内容をふまえ要約したものを記載しています。1つの設問に複数の意見が記述されている回答もあるため、件数の合計が回答数より多くなる場合があります。

(1) 市民アンケート結果概要

◎「環境」に関わること全般について

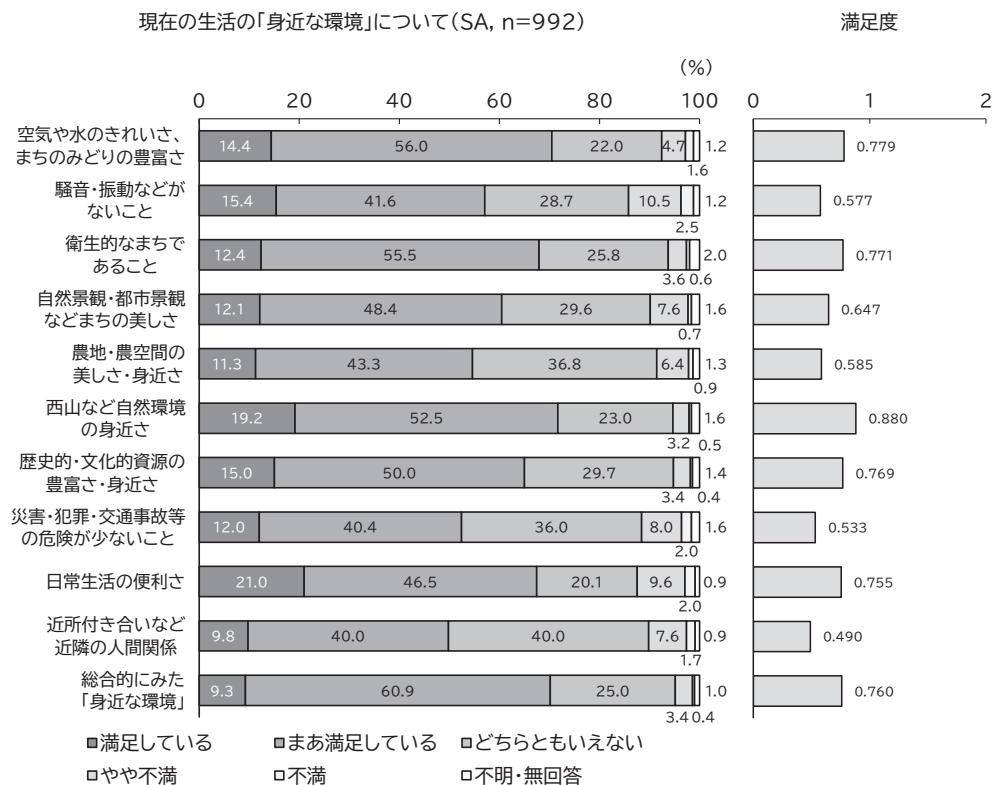
【環境について大きく変わったと感ずること】

ここ最近の長岡京市の環境について大きく変わったと感ずることについて、「夏の猛暑、冬の暖冬など、気候の変化」「長岡京ICの開通・西山天王山駅の開業など、ハード面の変化」が多くなっています。



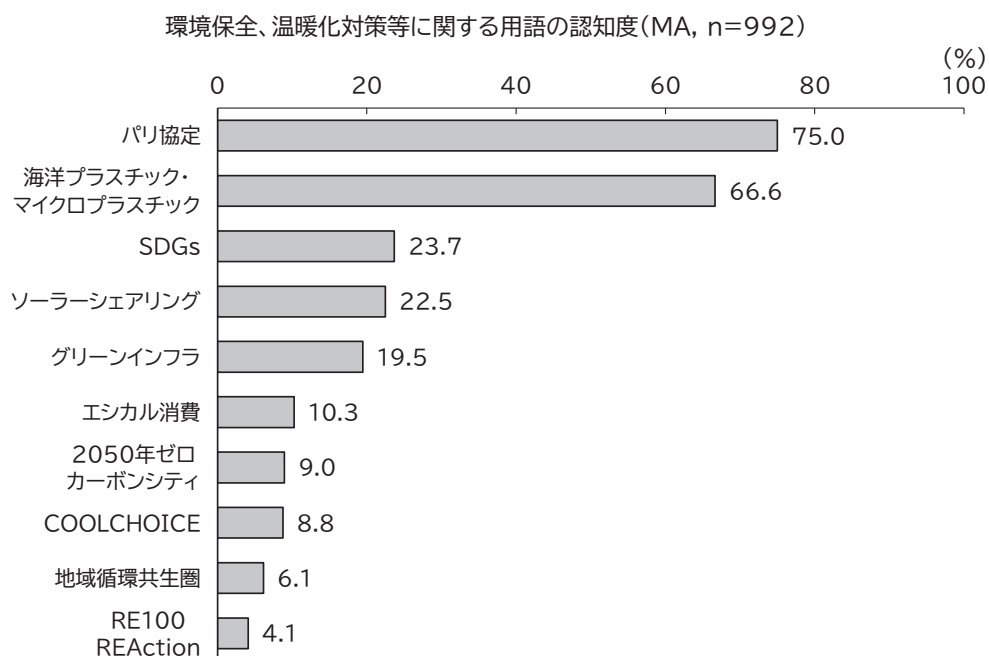
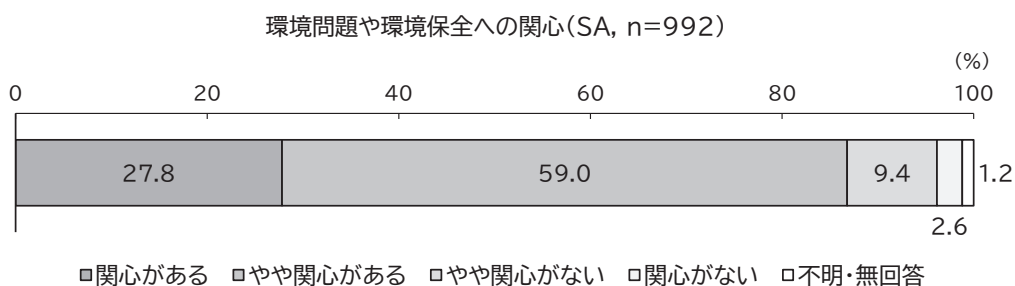
【身近な環境の満足度】

現在の生活の「身近な環境」について、「西山など自然環境の身近さ」「空気や水のきれいさ、まちのみどりの豊富さ」「衛生的なまちであること」の満足度が高くなっています。



【環境問題や環境保全への関心・用語の認知度】

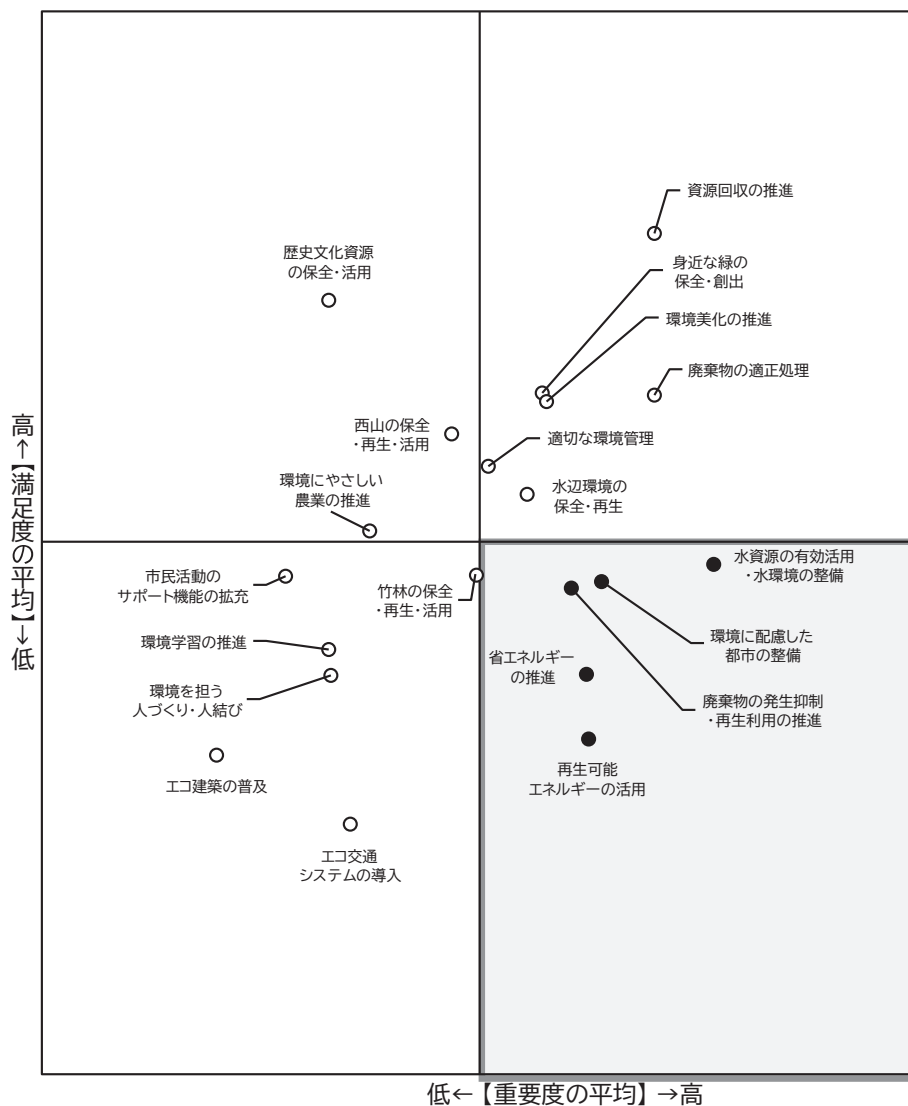
およそ9割の市民が、環境問題や環境保全について関心を持っています。環境保全、温暖化対策等に関する用語について、「パリ協定」「海洋プラスチック・マイクロプラスチック」の認知度が高くなっています。



【市の環境への取り組みについて】

市の環境への取り組みについて、「再生可能エネルギーの活用」「省エネルギーの推進」「廃棄物の発生抑制・再生利用の推進」「水資源の有効活用・水環境の整備」「環境に配慮した都市の整備」は、現在の満足度が低く、今後の重要度が高い「ニーズの高い取り組み」となっています。

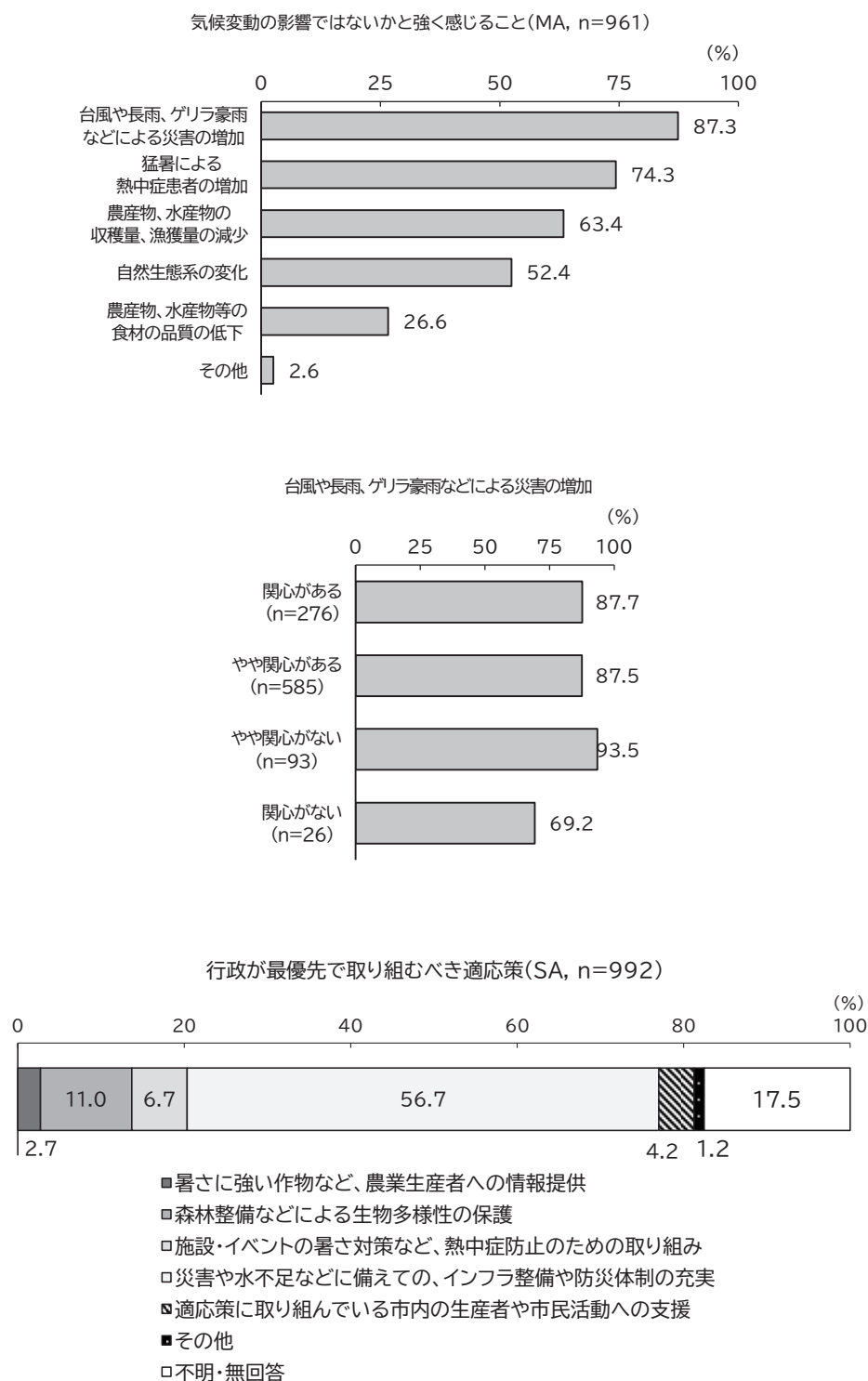
長岡京市の環境の取り組みについての「現在の満足度」と「今後の重要度」



◎「脱炭素型社会づくり」について

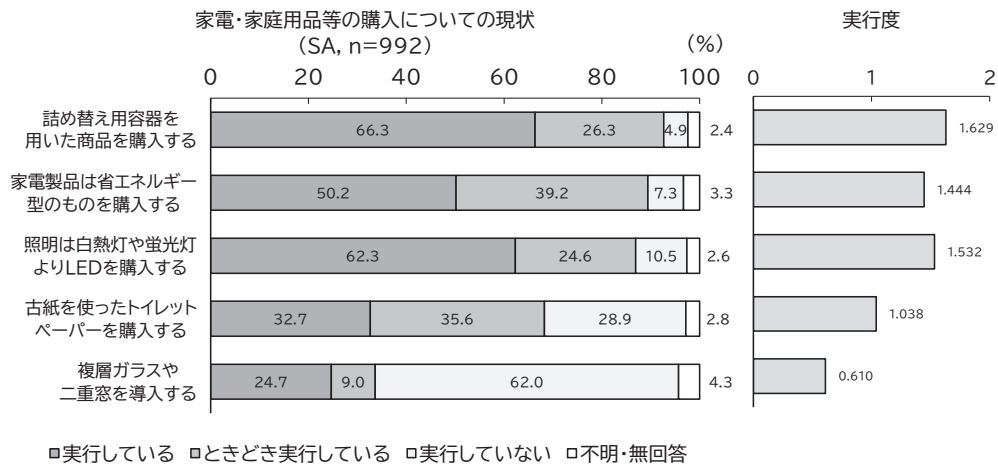
【気候変動の影響と適応策】

気候変動の影響ではないかと強く感じることにについて、「台風や長雨、ゲリラ豪雨などによる災害の増加」が、環境への関心の有無を問わず多くなっています。行政に求められる適応策は、「災害や水不足などに備えての、インフラ整備や防災体制の充実」が最も多くなっています。

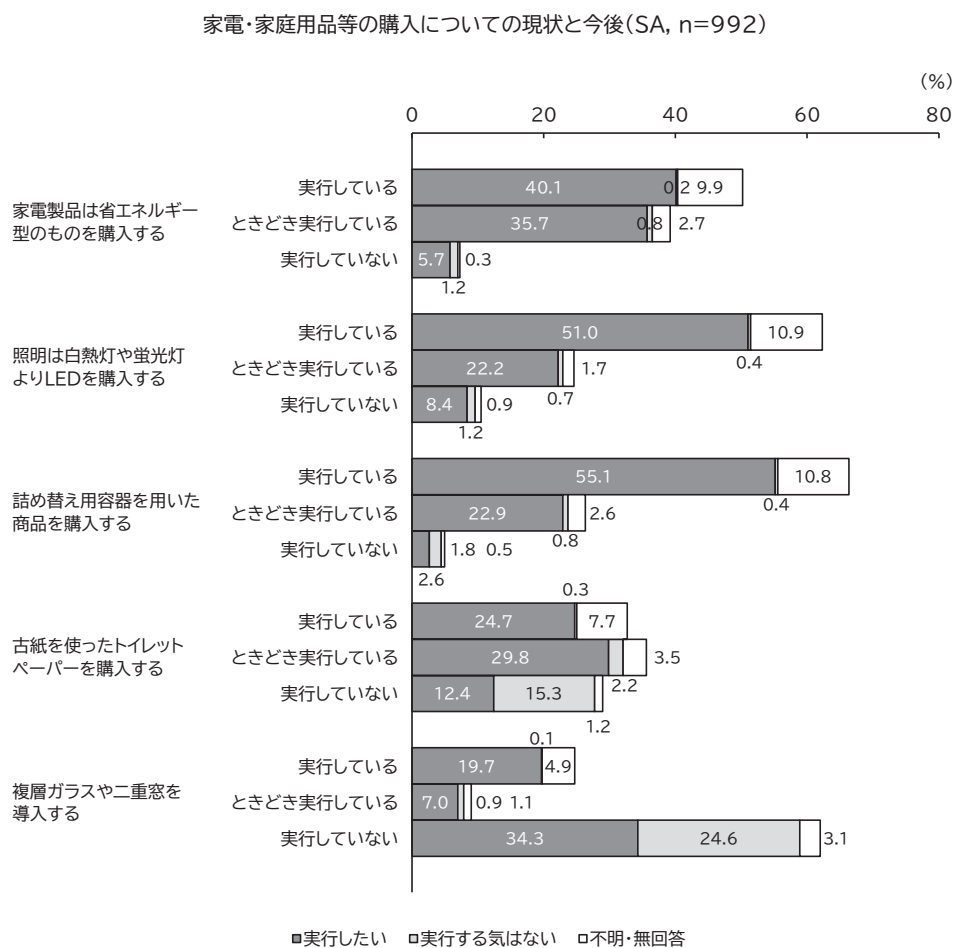


【家電・家庭用品等の購入時の環境への配慮】

日常生活での家電・家庭用品等の購入時について、「詰め替え用容器を用いた商品を購入する」「照明は白熱灯や蛍光灯よりLEDを購入する」「家電製品は省エネルギー型のものを購入する」の実行度が高くなっています。

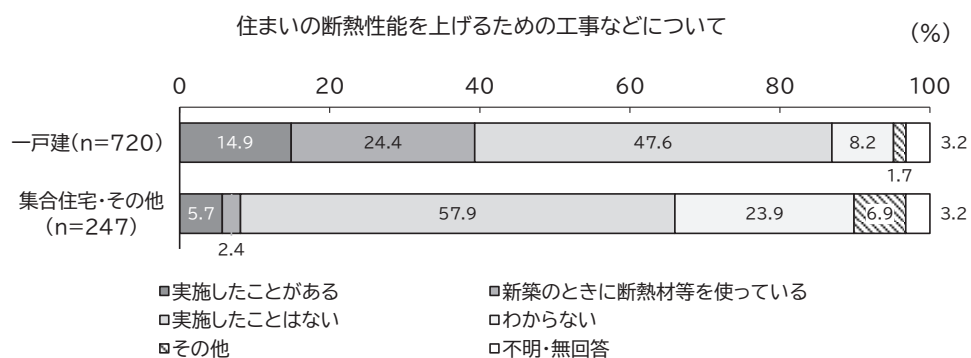


「複層ガラスや二重窓を導入する」は、現状で「実行している」が少なく、実行度も低くなっていますが、今後は「実行したい」が多くなっています。



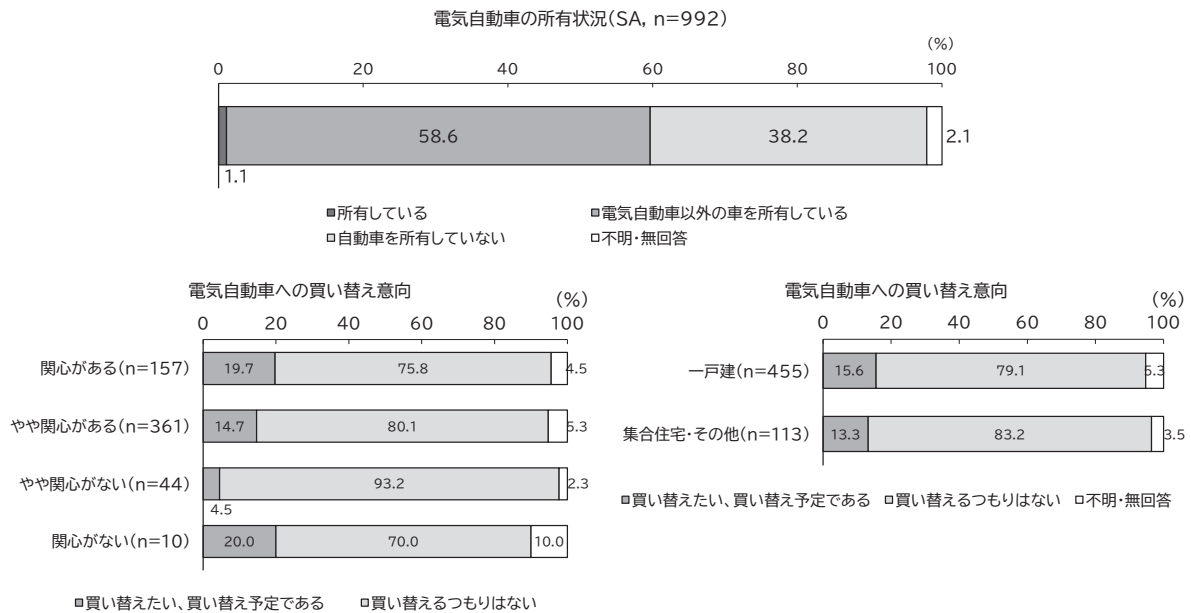
【住まいの断熱性能について】

住まいの断熱性能を上げるためのリフォーム工事などについて、一戸建のおよそ4割が「実施したことがある」「新築の時に断熱材を使っている」となっています。

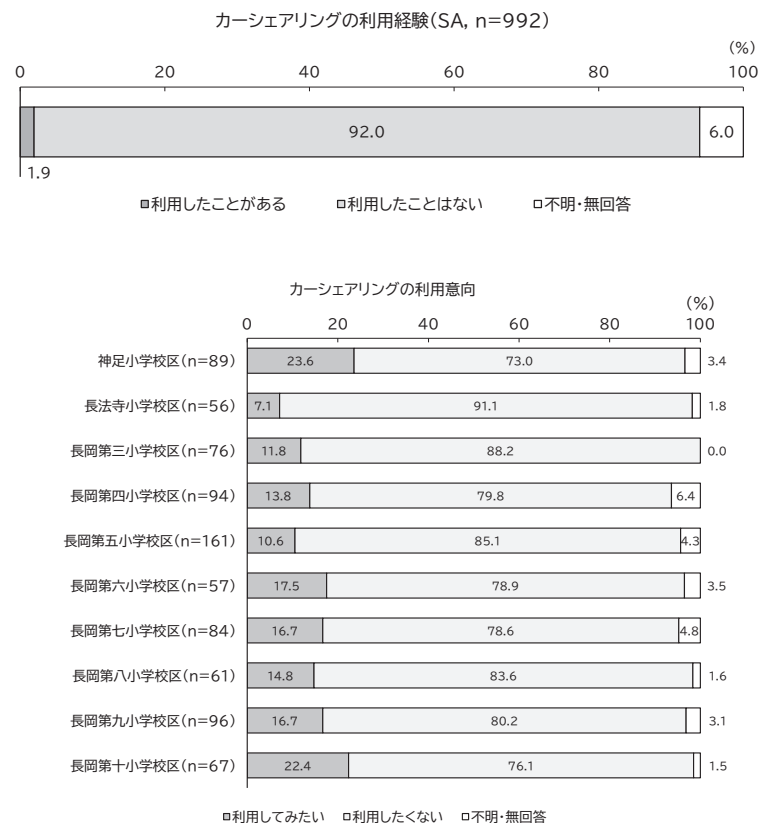


【自動車について】

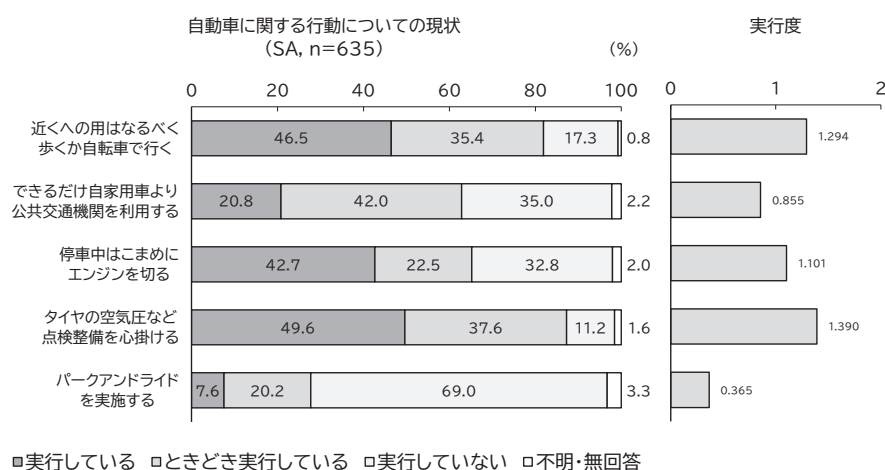
電気自動車を「所有している」は1％程度となっていますが、今後の買い替えの意向をみると、環境への関心の有無や住宅の種類等を問わず、およそ2割が「買い替えたい、買い替え予定である」となっています。



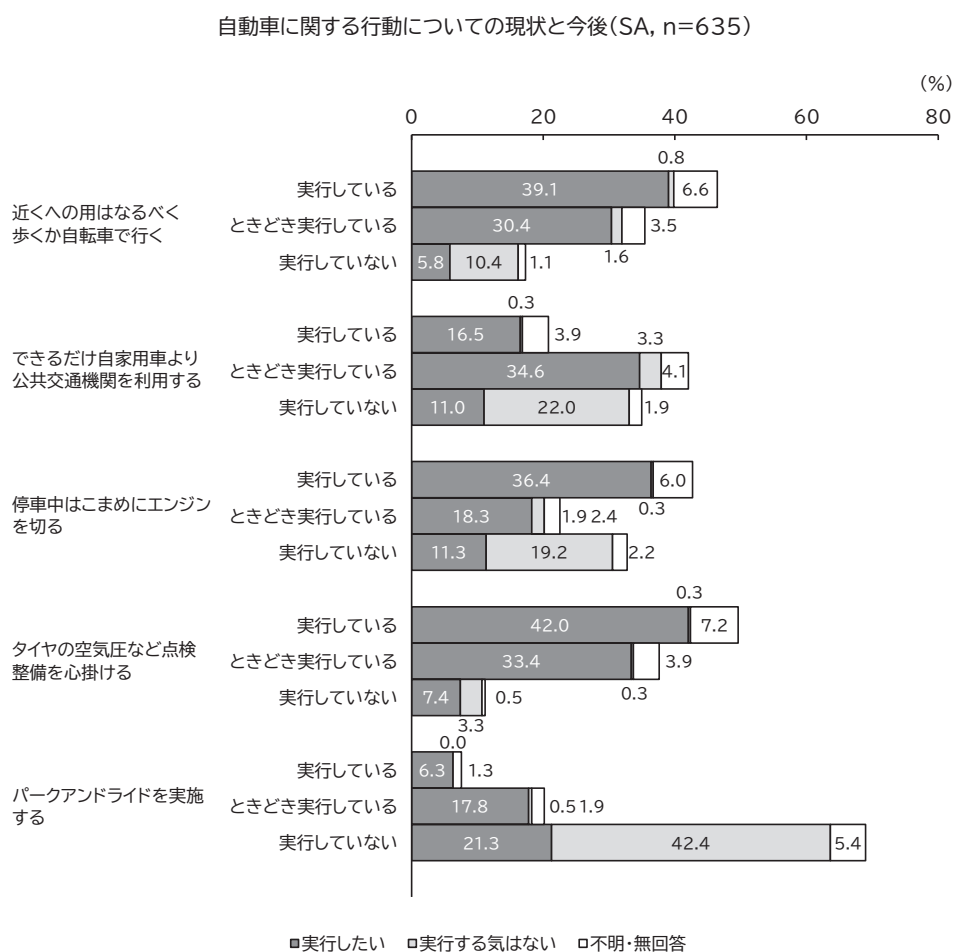
カーシェアリングを「利用したことがある」は2％程度となっていますが、今後の利用の意向をみると、神足小学校区や長岡第十小学校区では「利用してみたい」が2割以上、長法寺小学校区では1割以下と、地域によって差がみられます。



自動車に関する行動について、「タイヤの空気圧など点検整備を心掛ける」「近くへの用はなるべく歩くか自転車で行く」の実行度が高くなっています。

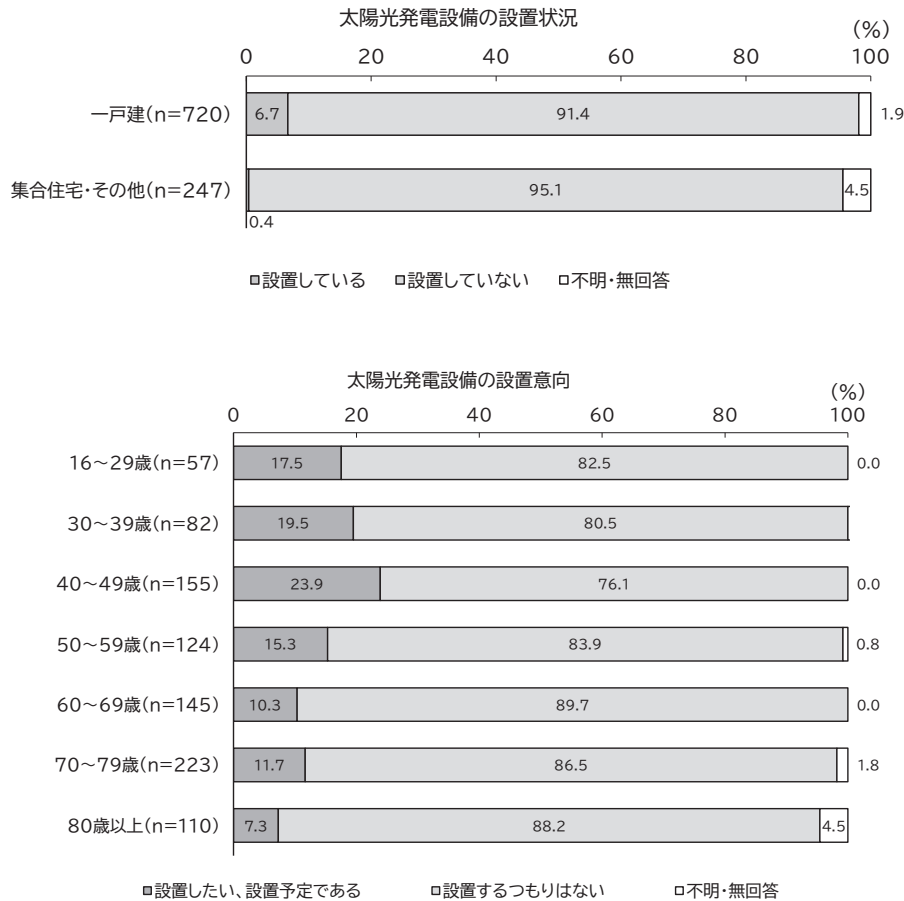


「パークアンドライドを実施する」は、現状で「実行している」が少なく、実行度も低くなっていますが、今後は「実行したい」が多くなっています。

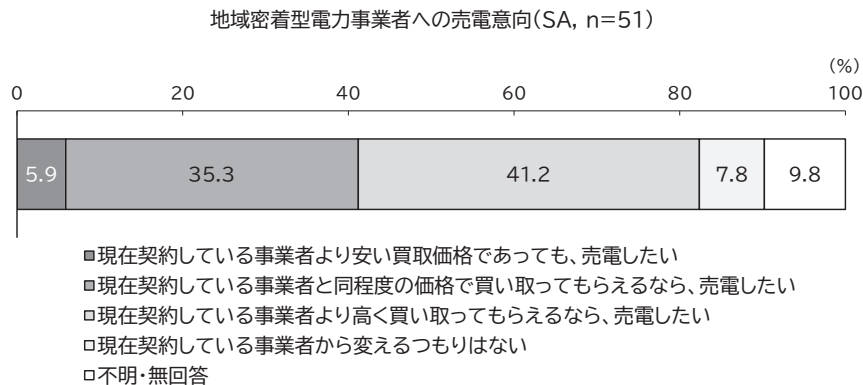


【太陽光発電について】

一戸建てで太陽光発電設備を「設置している」はおよそ7%となっています。今後の設置の意向をみると、若年層の「設置したい、設置意向である」が多く、40～49歳をピークに、年代が高くなるほど少なくなっています。

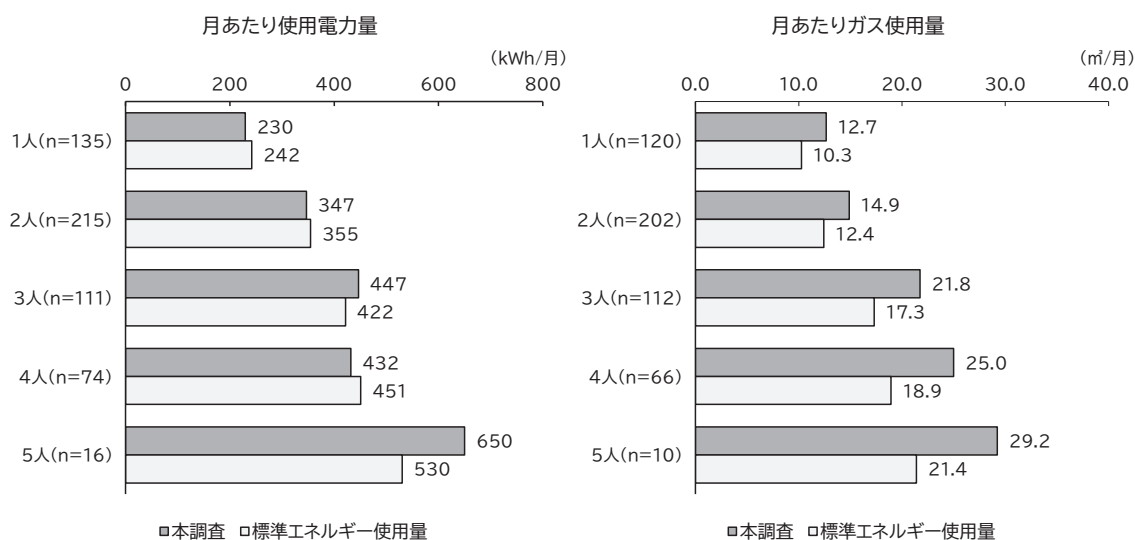


長岡京市域の余剰電力を買い取って、その電気を市域の住宅や公共施設（学校など）に販売する「地域密着型の電力事業者」が現れた場合の売電の意向について、太陽光発電設備を設置しているうちおよそ8割が、現在と同程度、あるいは現在より高い価格なら売電したいとなっています。

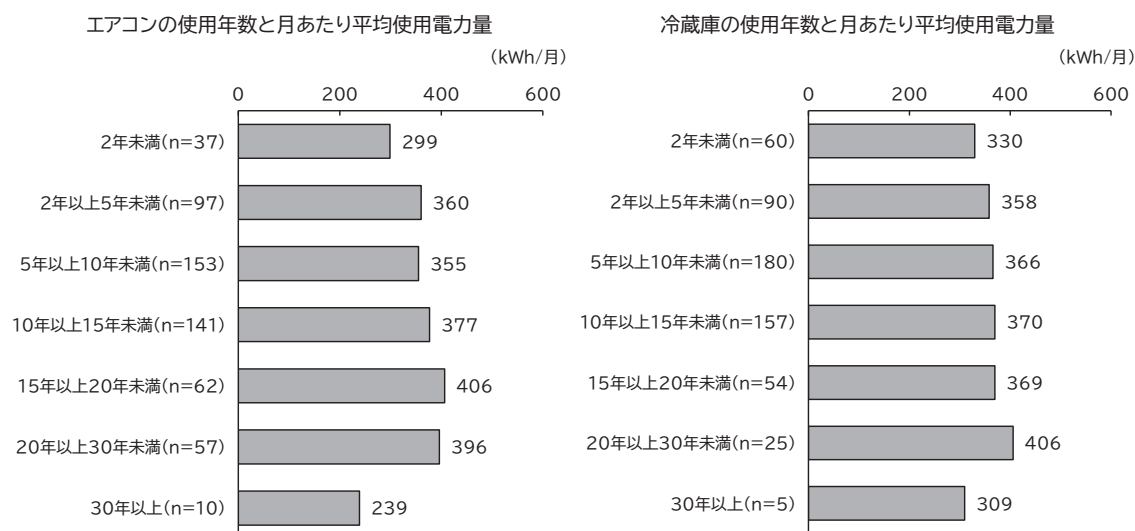


【家庭のエネルギー使用量】

7～9月の1か月あたりの使用電力量、ガス使用量について、京都府南部の標準的なエネルギー使用量と比較すると、電力は標準と同程度、ガスは標準より多くなっています。



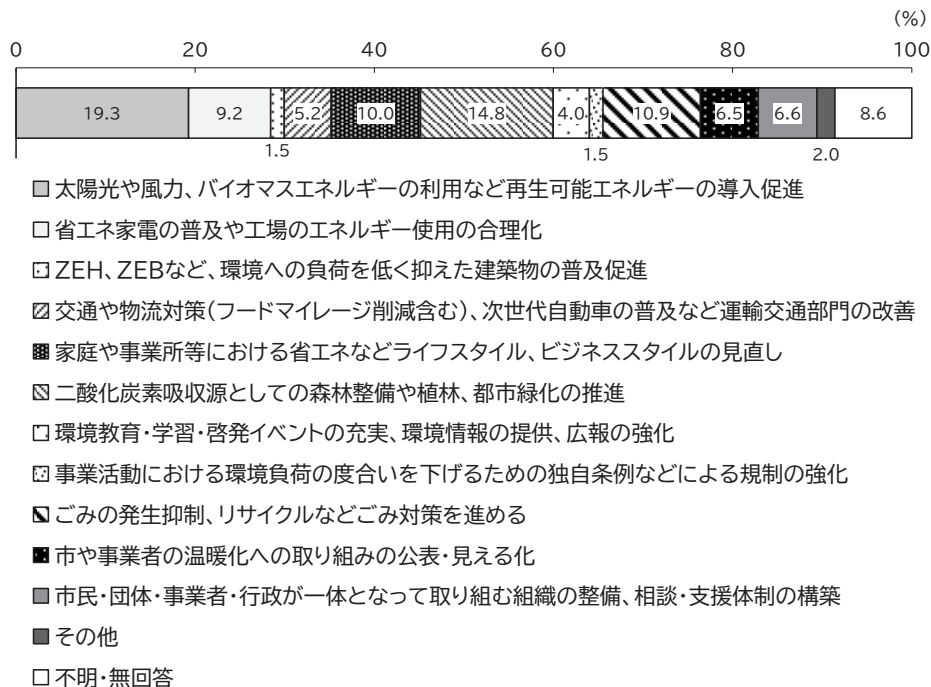
エアコン・冷蔵庫の使用年数について、1か月あたりの使用電力量の関係をみると、「30年以上」を除いて、新しいエアコン・冷蔵庫の使用年数が短いほど、使用電力量が少なくなっています。



【温暖化防止のための市全体として最も重要な取り組み】

温暖化防止のための市全体として最も重要な取り組みについて、「太陽光や風力、バイオマスエネルギーの利用など再生可能エネルギーの導入促進」「二酸化炭素吸収源としての森林整備や植林、都市緑化の推進」が多くなっています。

温暖化防止のための市全体として最も重要な取り組み(SA, n=992)

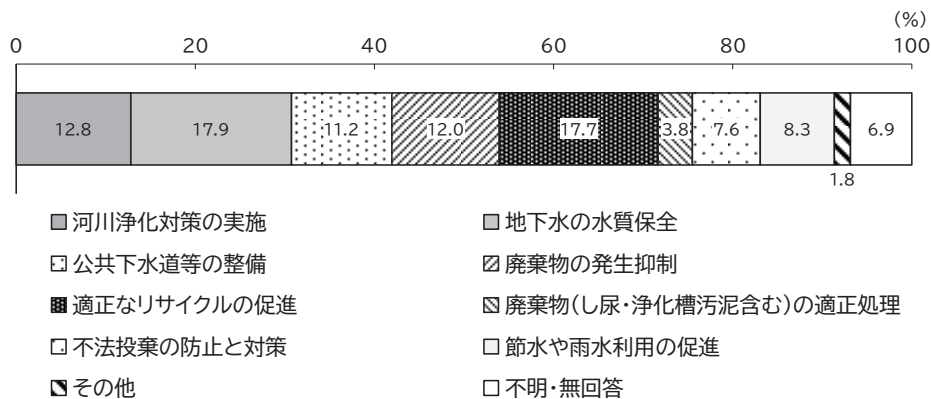


◎「資源循環型社会づくり」について

【資源・水の循環のための市全体として最も重要な取り組み】

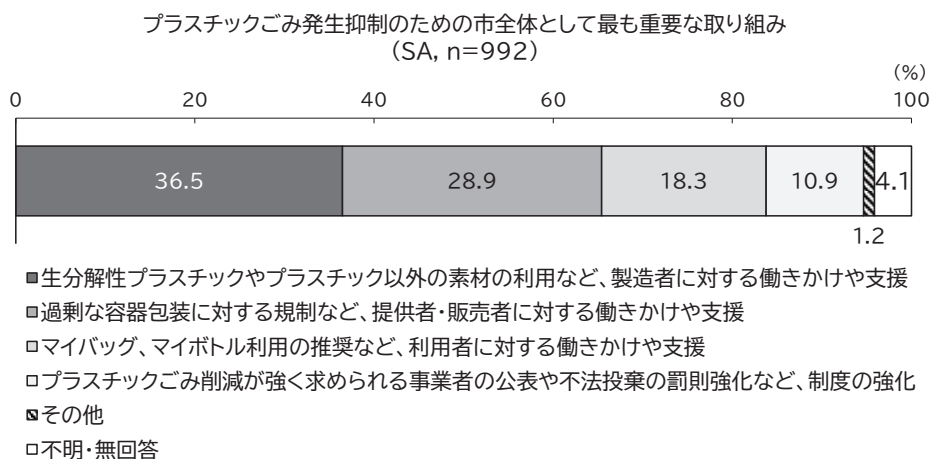
資源や水を適正に循環させ、環境への負担を減らしていくために市全体として最も重要な取り組みについて、「地下水の水質保全」「適正なリサイクルの促進」が多くなっています。

資源・水の循環のための市全体として最も重要な取り組み (SA, n=992)



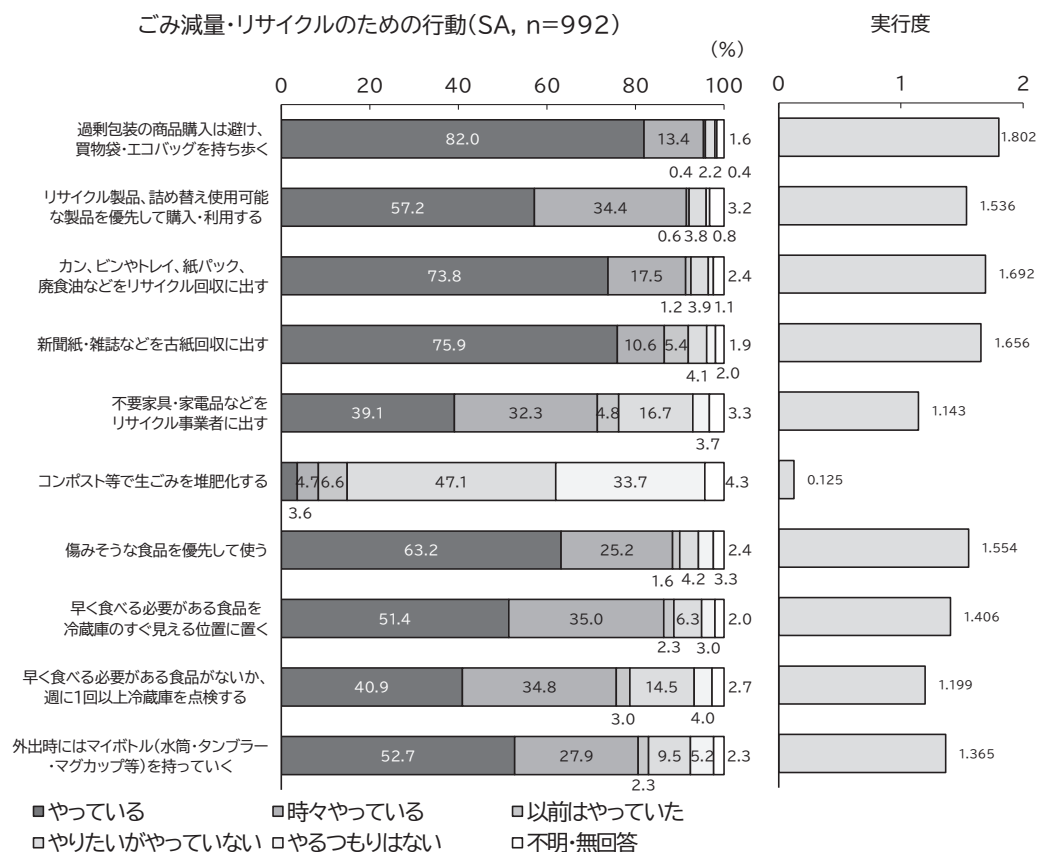
【プラスチックごみ発生抑制のための市全体として最も重要な取り組み】

プラスチックごみの発生を抑制するために市全体として最も重要な取り組みについて、「生分解性プラスチックやプラスチック以外の素材の利用など、製造者に対する働きかけや支援」「過剰な容器包装に対する規制など、提供者・販売者に対する働きかけや支援」が多くなっています。



【ごみ減量・リサイクルのための行動】

「過剰包装の商品購入は避け、買物袋・エコバッグを持ち歩く」「カン、ビンやトレイ、紙パック、廃食油などをリサイクル回収に出す」「新聞紙・雑誌などを古紙回収に出す」の実行度が高く、「コンポスト等で生ごみを堆肥化する」の実行度が低くなっています。

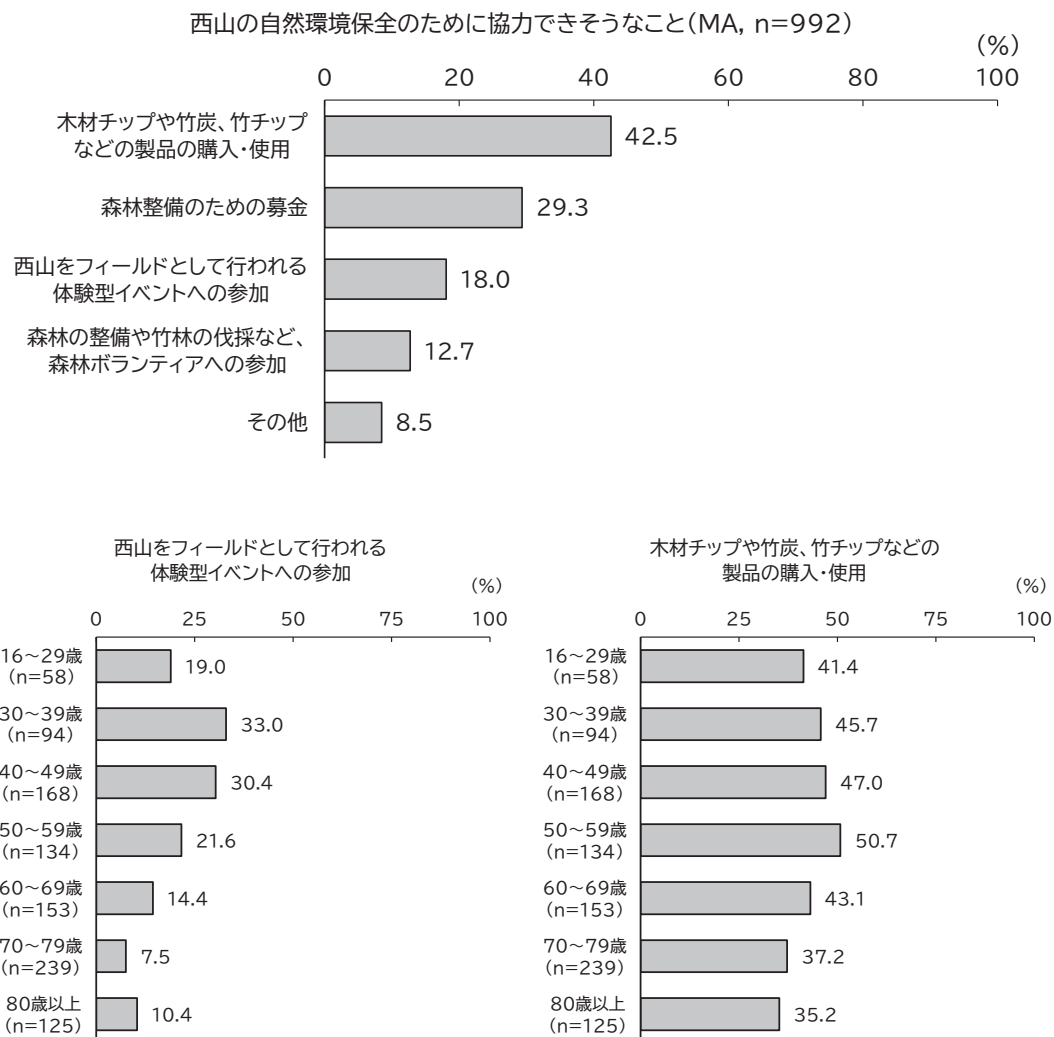


◎「環境共生のまちづくり」について

【西山の自然環境保全のために協力できそうなこと】

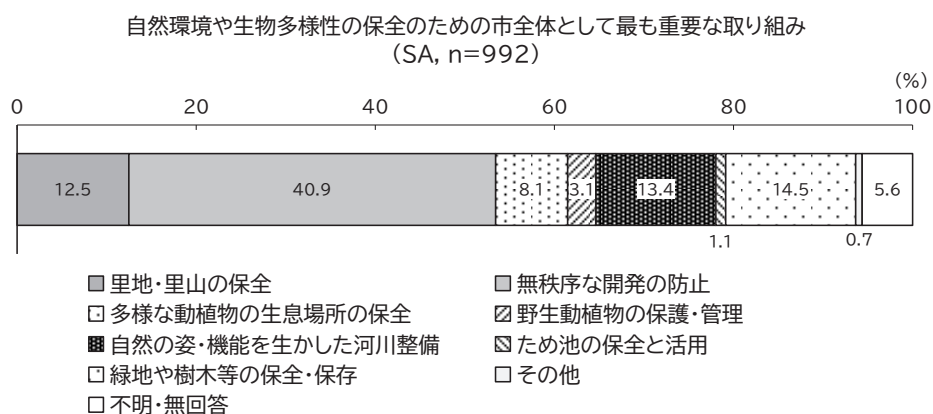
西山の自然環境保全に関わる取り組みの中で協力できそうなことについて、「木材チップや竹炭、竹チップなどの製品の購入・使用」「森林整備のための募金」が多くなっています。

若年層では「西山をフィールドとして行われる体験型イベントへの参加」が、中高年層では「木材チップや竹炭、竹チップなどの製品の購入・使用」が多くなっています。



【自然環境や生物多様性の保全のための市全体として最も重要な取り組み】

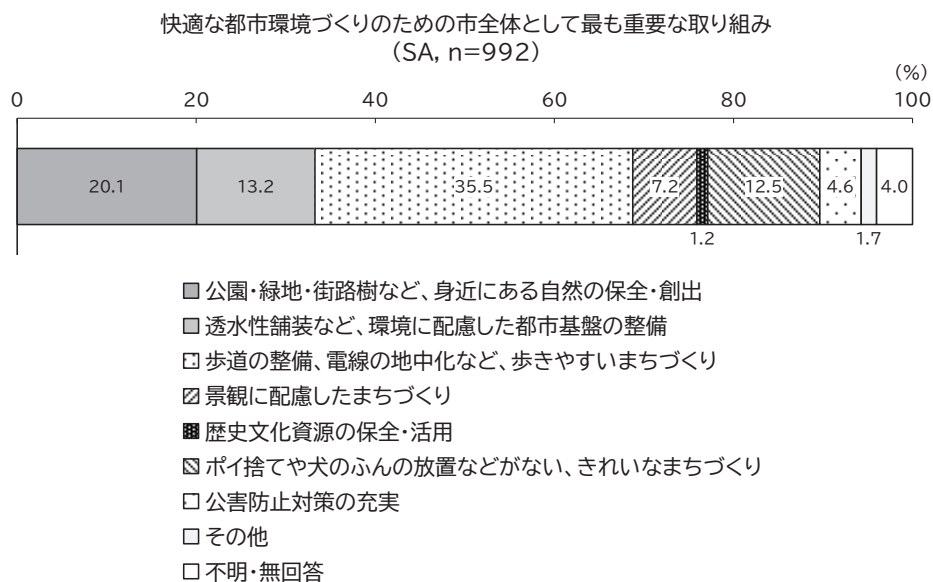
自然環境や生物多様性の保全のための市全体として最も重要な取り組みとして、「無秩序な開発の防止」が最も多くなっています。



◎「快適な都市環境づくり」について

【快適な都市環境づくりのための市全体として最も重要な取り組み】

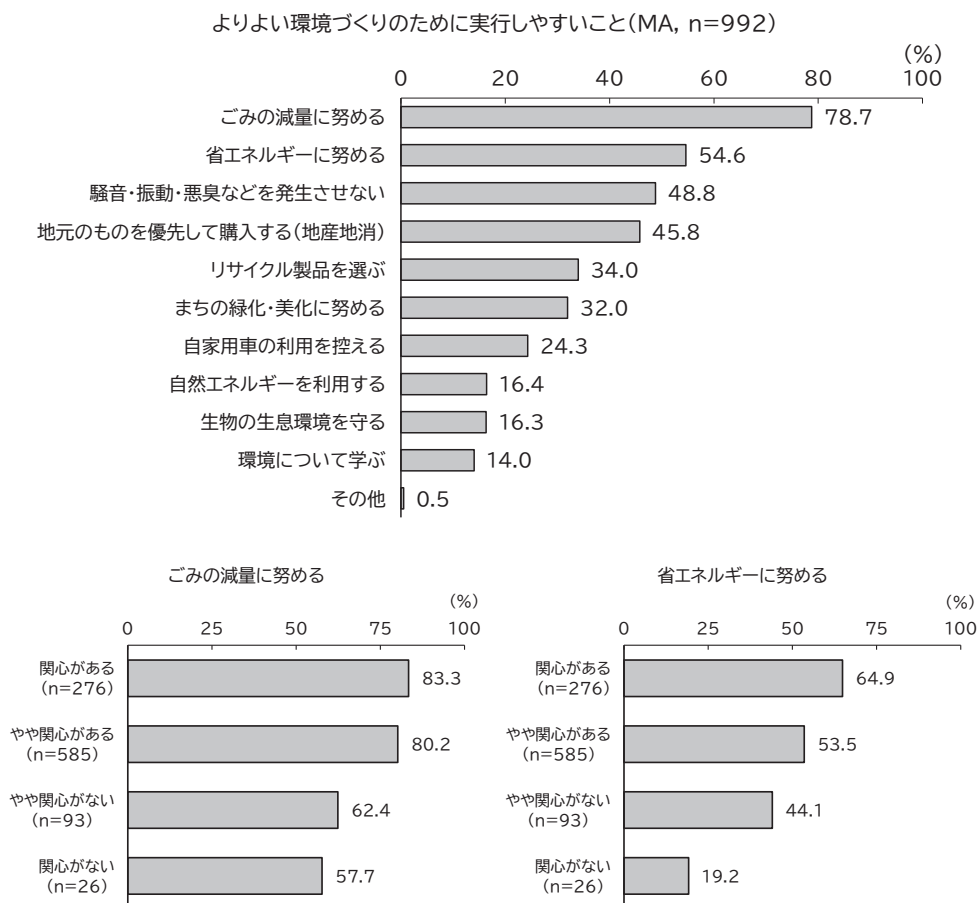
快適な都市環境づくりのために市全体として最も重要な取り組みとして、「歩道の整備、電線の地中化など、歩きやすいまちづくり」が最も多くなっています。



◎環境の取り組みへの参画と協働について

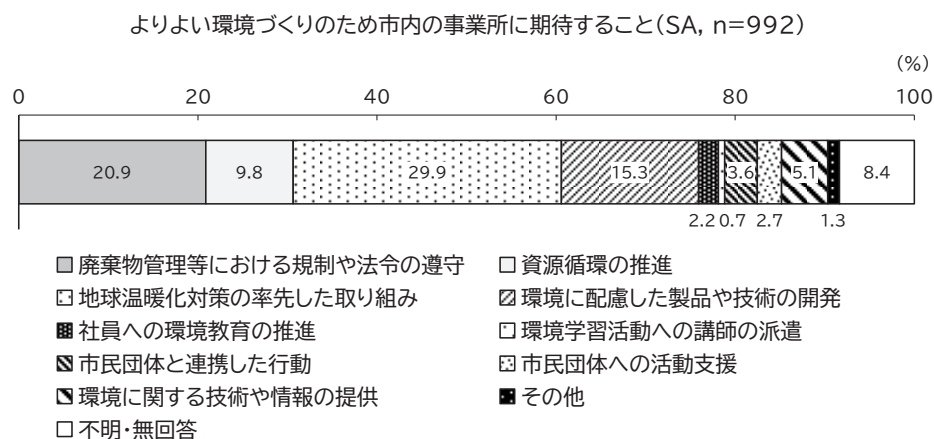
【よりよい環境づくりのために実行しやすいこと】

よりよい環境づくりのために実行しやすいことについて、「ごみの減量に努める」「省エネルギーに努める」が多くなっていますが、環境への関心の有無によって差があります。



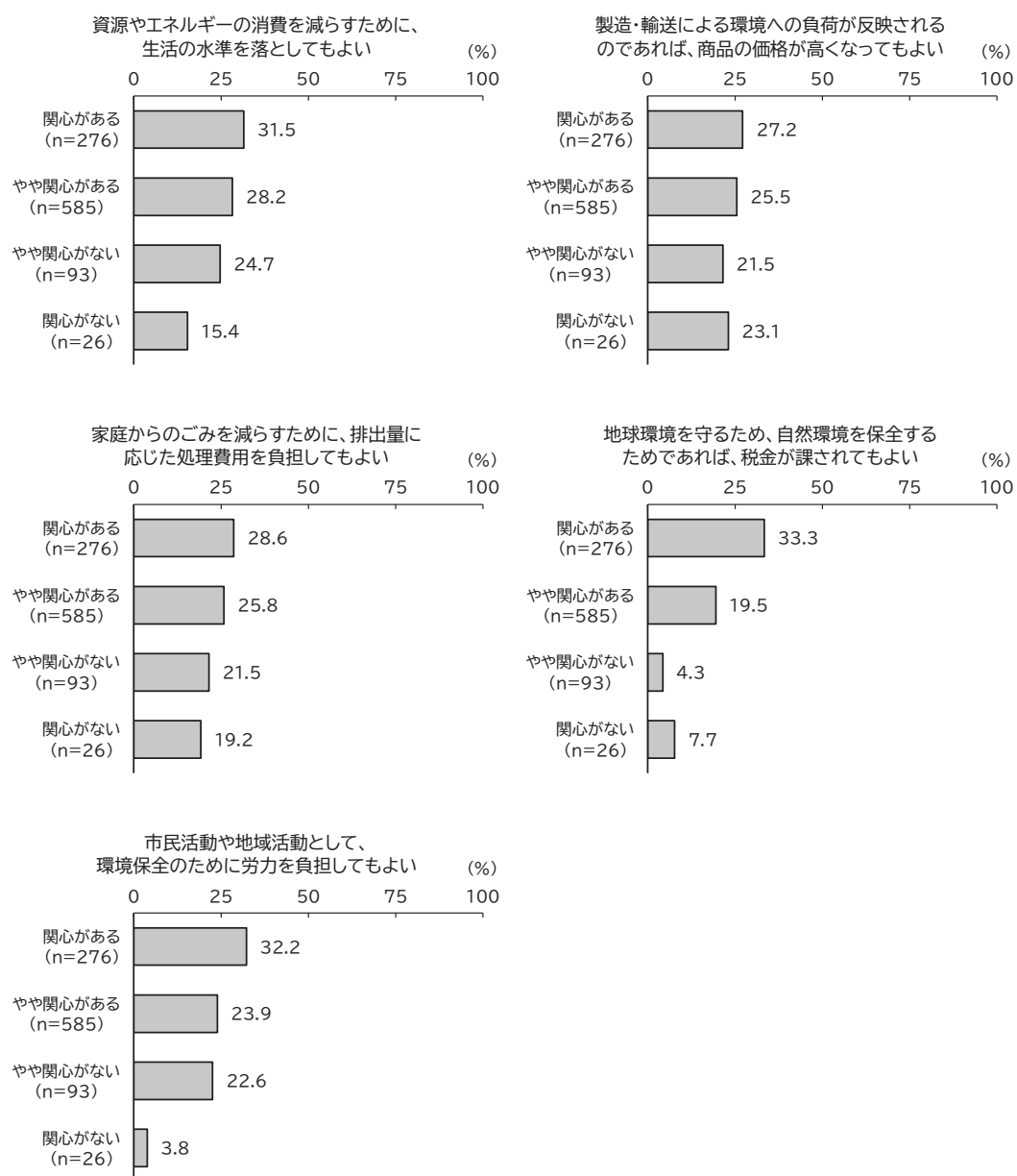
【よりよい環境づくりのために市内の事業所に期待すること】

よりよい環境づくりのために市内の事業所に期待することとして、「地球温暖化対策の率先した取り組み」が最も多くなっています。



【環境のために、我々の日々の暮らしや社会、経済のあり方を変えていくことについて】

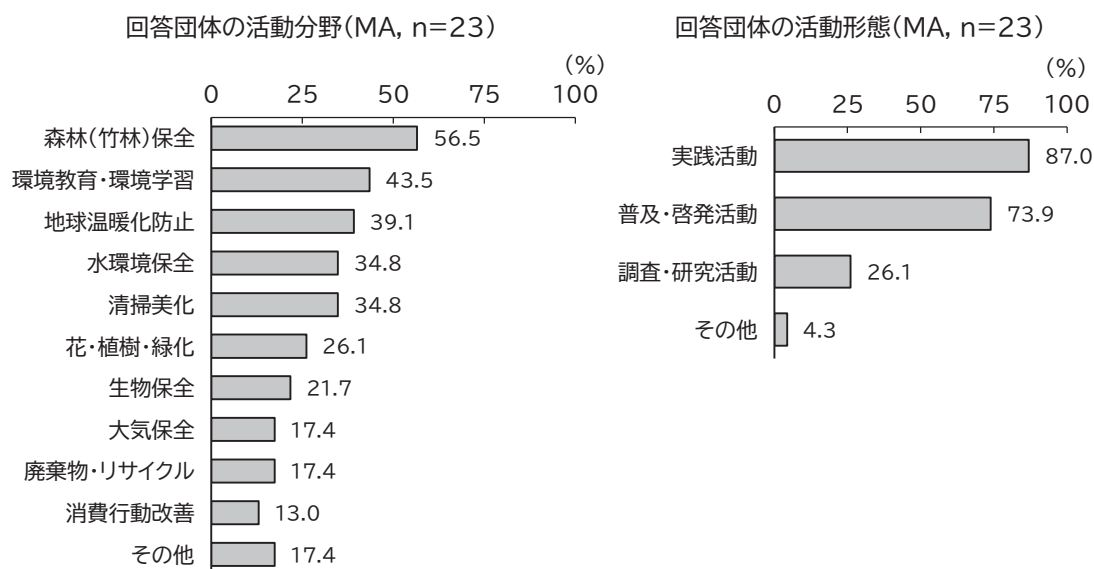
環境のために、我々の日々の暮らしや社会、経済のあり方を変えていくことについて、環境への関心の有無によって差がみられます。



(2) 団体アンケート結果概要

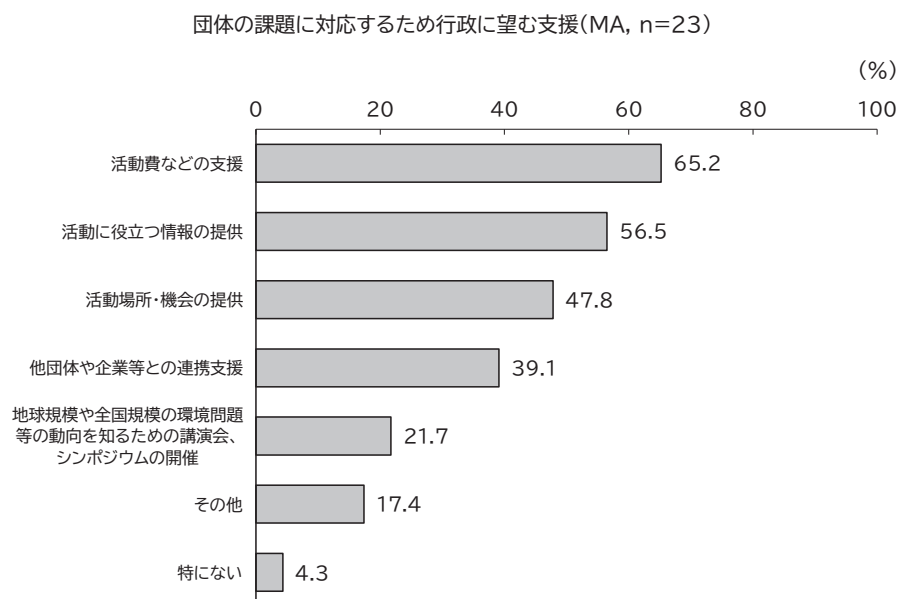
【活動分野・活動形態】

活動分野について、「森林（竹林）保全」が最も多くなっています。活動形態について、「実践活動」「普及・啓発活動」が多くなっています。



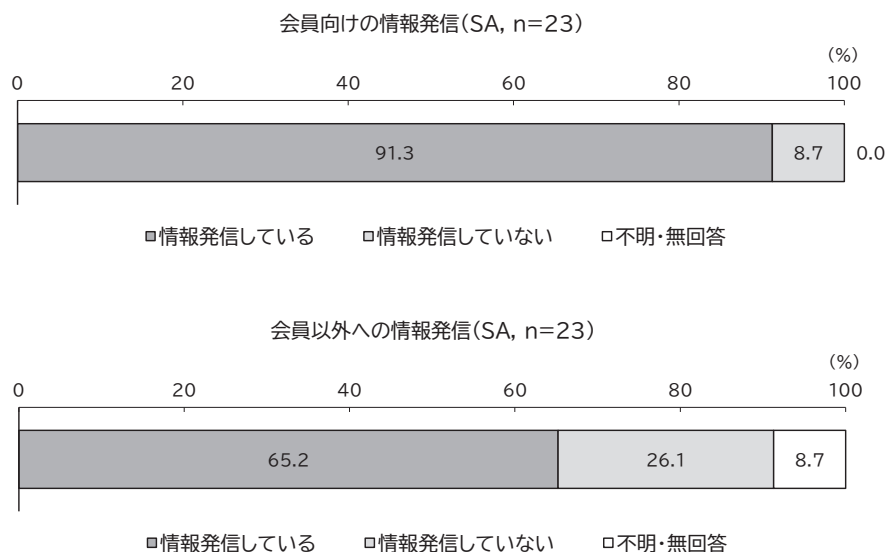
【行政に望む支援】

団体が抱える課題に対応するため行政に望む支援として、「活動費などの支援」が最も多くなっています。

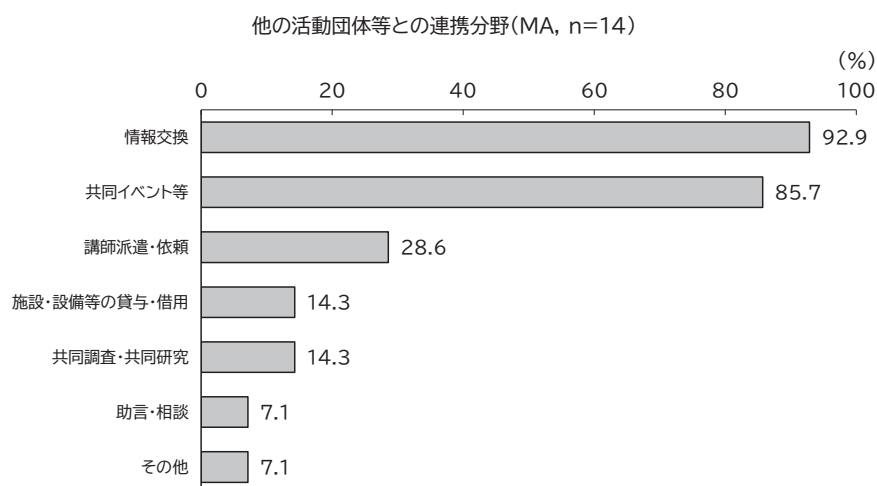
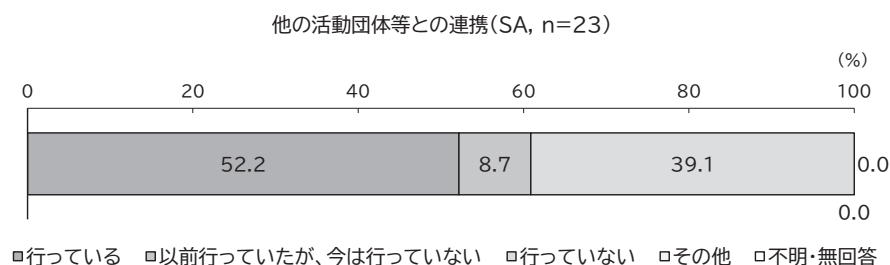


【情報発信・他団体との連携】

情報発信について、会員向けに「情報発信している」がおよそ9割、会員以外に「情報発信している」がおよそ7割となっています。



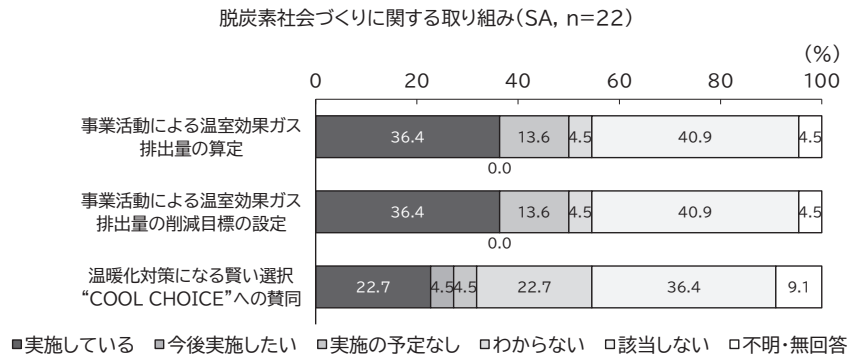
他の活動団体等との連携について、「行っている」「以前行っていたが、今は行っていない」がおよそ6割となっています。連携分野について、「情報交換」「共同イベント等」が多くなっています。



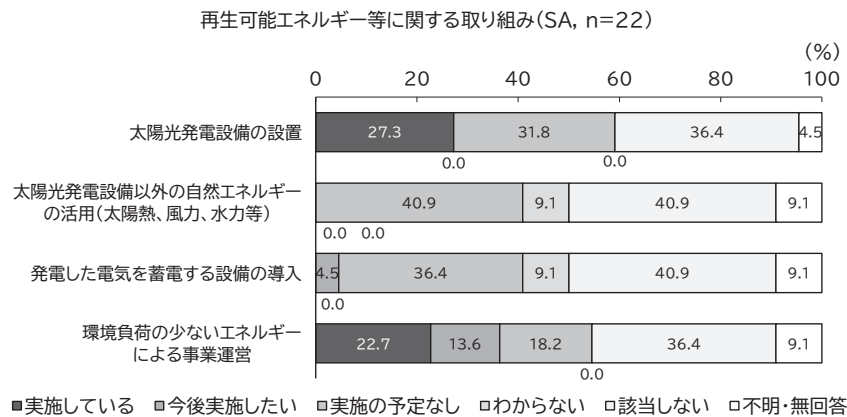
(3) 事業者アンケート結果概要

◎事業所での環境保全活動

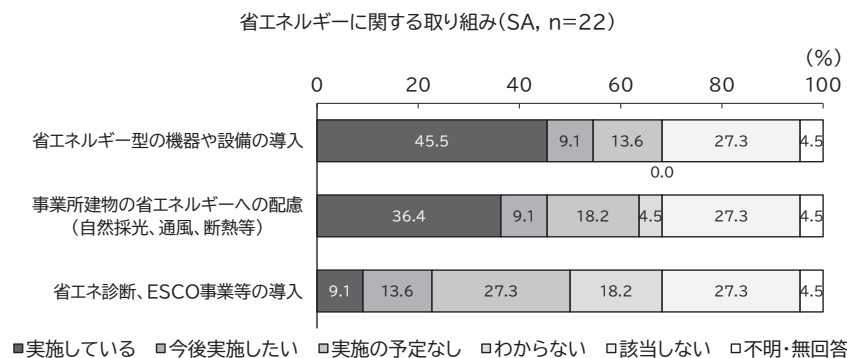
脱炭素社会づくりに関する取り組みについて、「温暖化対策になる賢い選択“COOL CHOICE”への賛同」の「実施している」が少なくなっています。



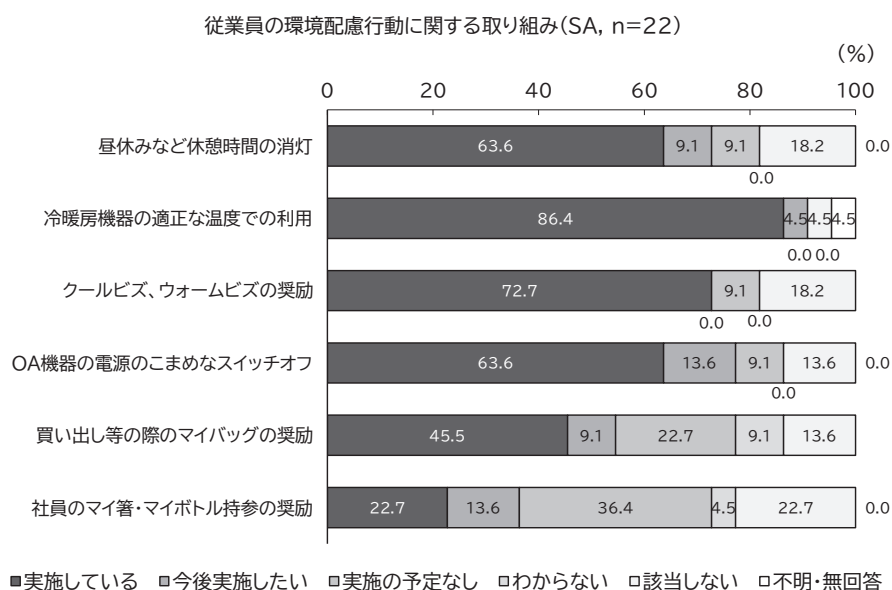
再生可能エネルギー等に関する取り組みについて、「環境負荷の少ないエネルギーによる事業運営」の「今後実施したい」が多くなっています。



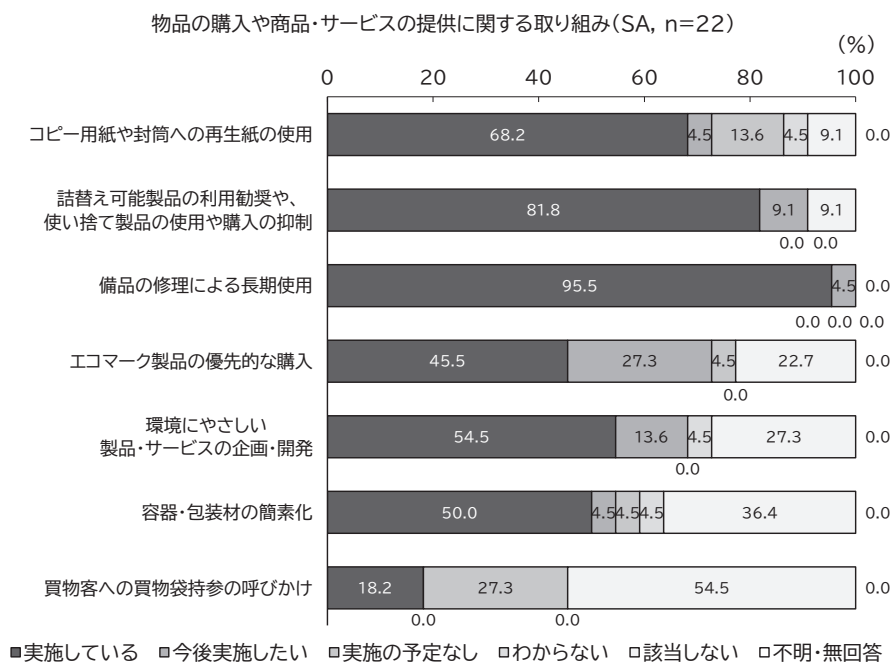
省エネルギーに関する取り組みについて、いずれの設問も「実施している」が50%を下回っていますが、「今後実施したい」については、1割前後に留まっています。



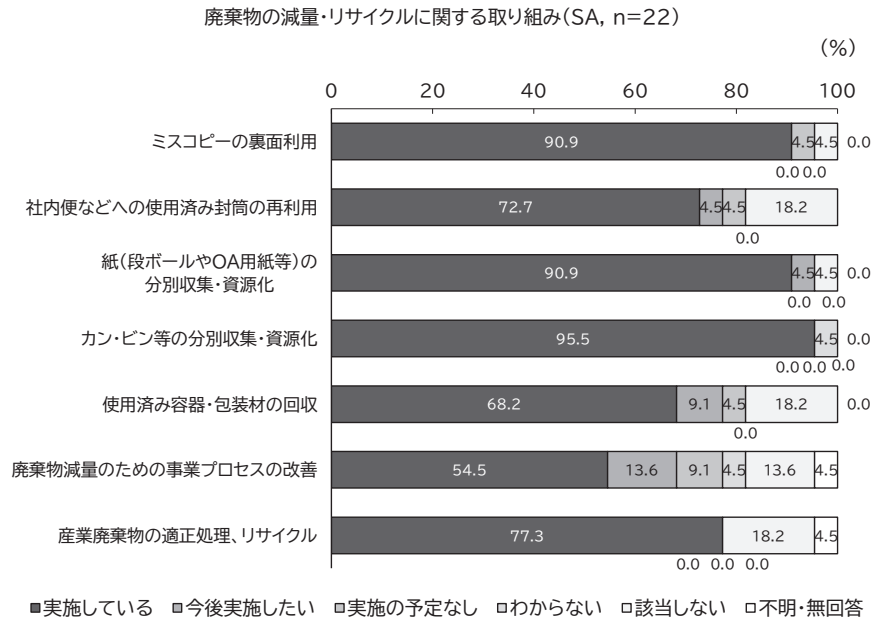
従業員の環境配慮行動に関する取り組みについて、「冷暖房機器の適正な温度での利用」の「実施している」が多くなっています。「買い出し等の際のマイバッグの奨励」「社員のマイ箸・マイボトル持参の奨励」の「実施している」が少なく、「実施の予定なし」が多くなっています。



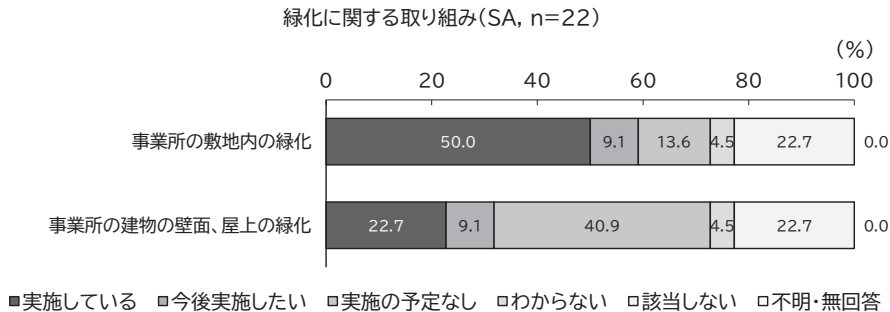
物品の購入や商品・サービスの提供に関する取り組みについて「備品の修理による長期利用」の「実施している」が多くなっています。「エコマーク製品の優先的な購入」の「今後実施したい」が多くなっています。



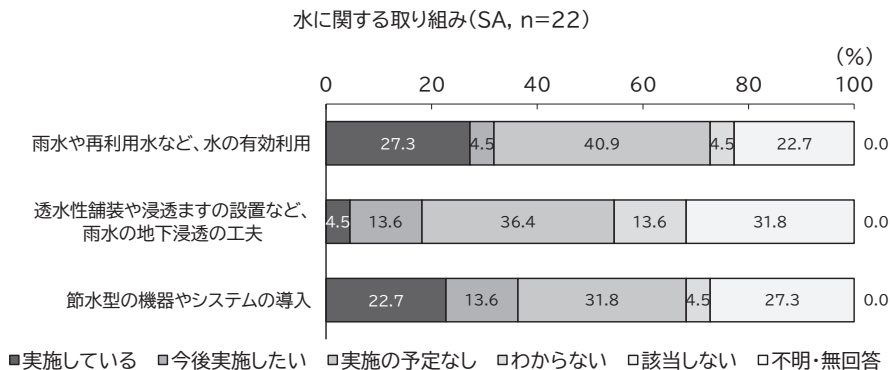
廃棄物の減量・リサイクルに関する取り組みについて、「廃棄物減量のための事業プロセスの改善」の「実施している」が少なく、「今後実施したい」が多くなっています。



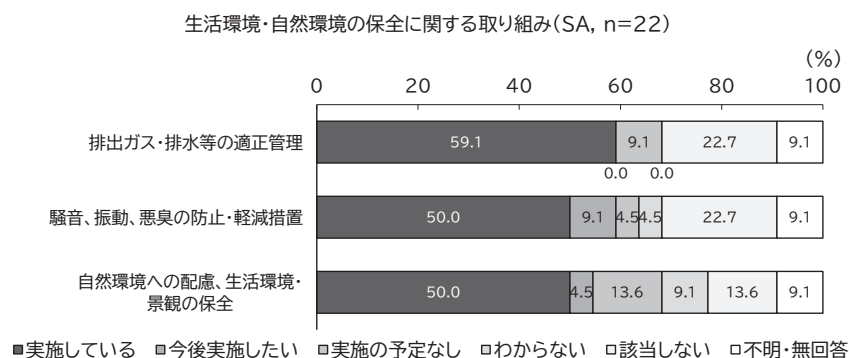
緑化に関する取り組みについて、「事業所の敷地内の緑化」の「実施している」が多くなっています。「事業所の建物の壁面、屋上の緑化」の「実施の予定なし」が多くなっています。



水に関する取り組みについて、「透水性舗装や浸透ますの設置など、雨水の地下浸透の工夫」の「実施している」が少なくなっています。いずれの取り組みも「実施の予定なし」が多くなっています。

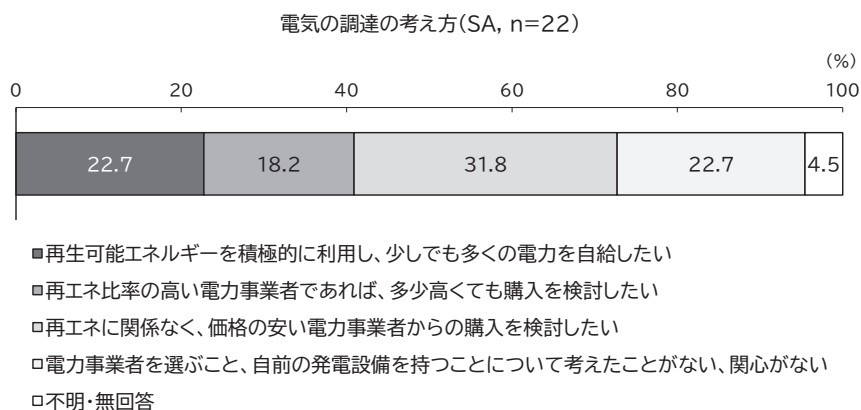


生活環境・自然環境の保全に関する取り組みについて、いずれの設問も「実施している」が50%以上となっています。

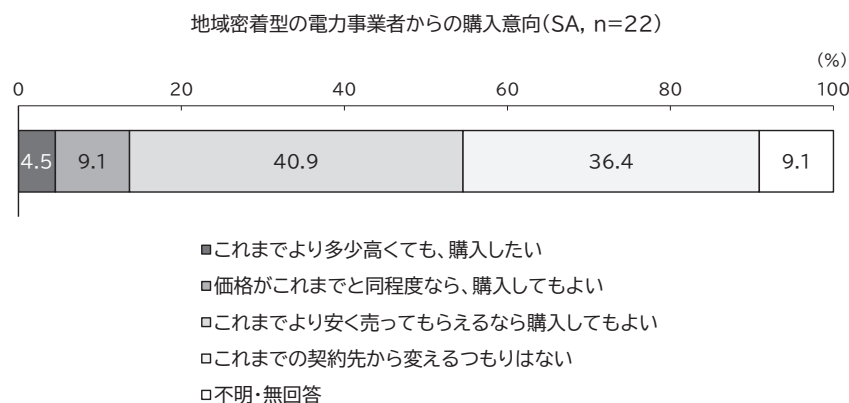


◎環境に関する経営・管理手法

電気の調達の方針について、およそ2割が「再生可能エネルギーを積極的に利用し、少しでも多くの電力を自給したい」、およそ2割が「再エネ比率の高い電力事業者であれば、多少高くても購入を検討したい」、およそ3割が「再エネに関係なく、価格の安い電力事業者からの購入を検討したい」、およそ2割が「電力事業者を選ぶこと、自前の発電設備を持つことについて考えたことがない、関心がない」となっています。

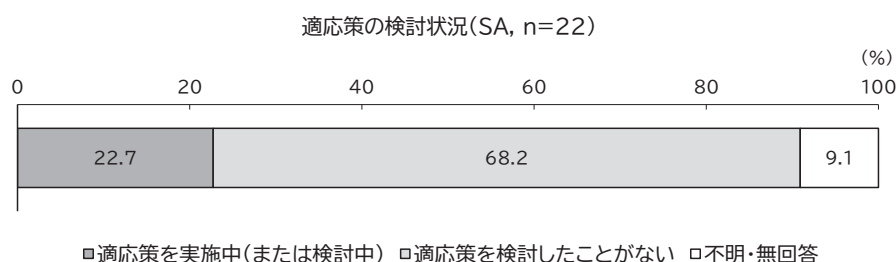


長岡京市内に地域密着型の電力事業者が現れたと仮定した場合、およそ1割が「これまでより多少高くても、購入したい」または「価格がこれまでと同程度なら、購入してもよい」、およそ4割が「これまでより安く売ってもらえるなら購入してもよい」となっています。およそ4割は「これまでの契約先から変えるつもりはない」となっています。

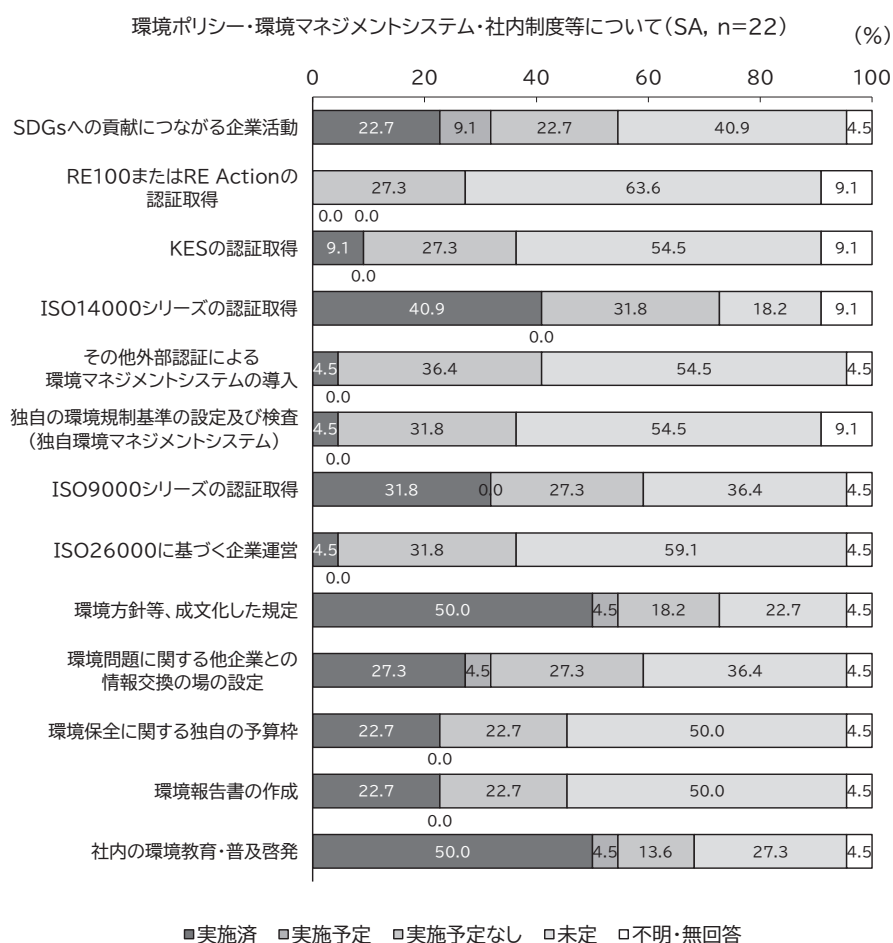


気候変動への適応策について、「適応策を実施中（または検討中）」がおよそ2割となっています。

具体的には、気温上昇による熱中症リスクやエネルギー使用量の増加、災害の発生などに備えた適応策を実施、検討しています。

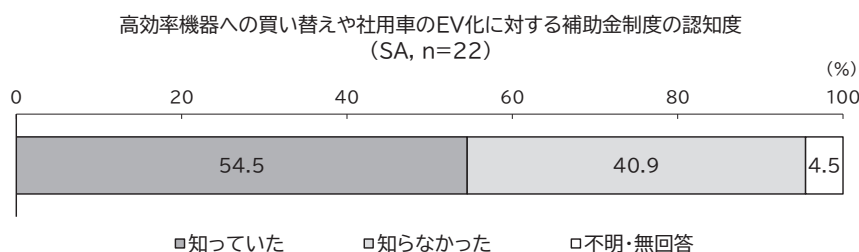


環境ポリシー・環境マネジメントシステム・社内制度等についての取り組みとして、「環境方針等、成文化した規定」「社内の環境教育・普及啓発」の「実施済」が多くなっています。「SDGsへの貢献につながる企業活動」の「実施予定」が多くなっています。「その他外部認証による環境マネジメントシステムの導入」「ISO14000シリーズの認証取得」「独自の環境規制基準の設定及び検査（独自環境マネジメントシステム）」「ISO26000に基づく企業運営」の「実施予定なし」が多くなっています。

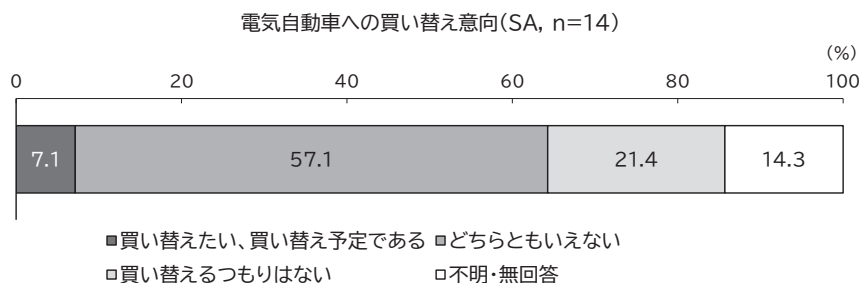
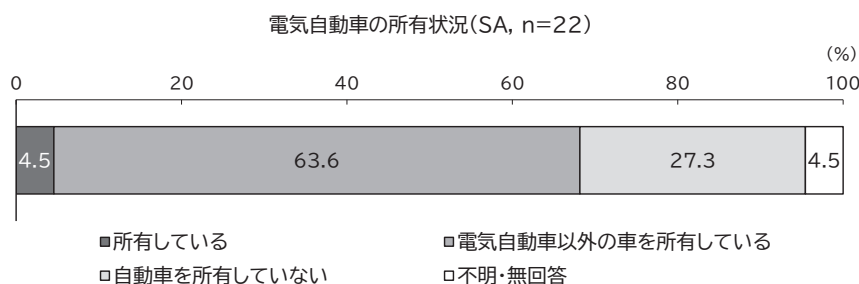


◎高効率機器の導入や社用車のEV化について

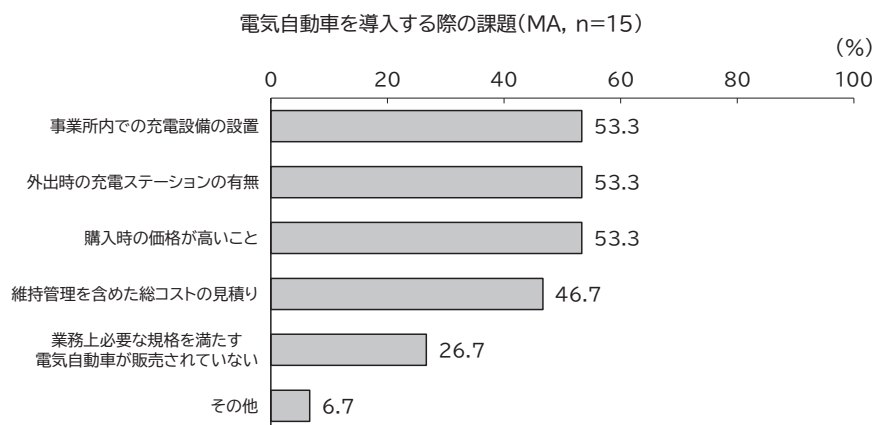
半数以上の事業所で、高効率機器への買い替えや社用車のEV化に対する補助金制度について、およそ5割が「知っていた」となっています。



社用車として電気自動車を「所有している」はおよそ5%、今後の買い替えについて「買い替えたい、買い替え予定である」はおよそ7%となっています。

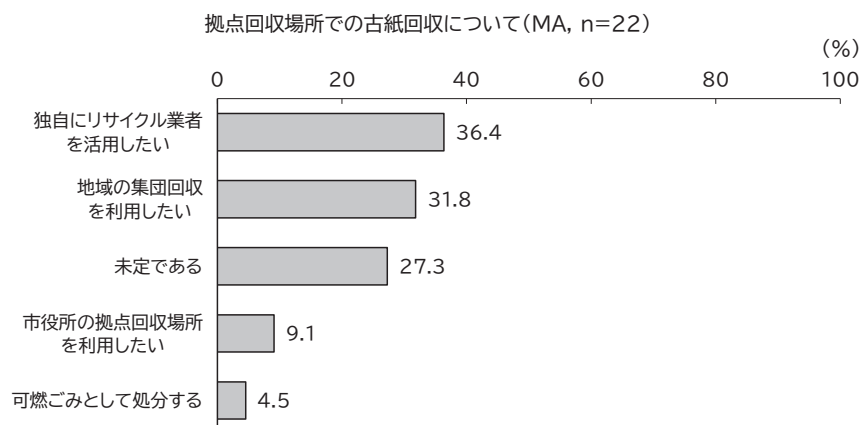


電気自動車を導入する際の課題について、「事業所内での充電設備の設置」「外出時の充電ステーションの有無」「購入時の価格が高いこと」「維持管理を含めた総コストの見積り」が多くなっています。



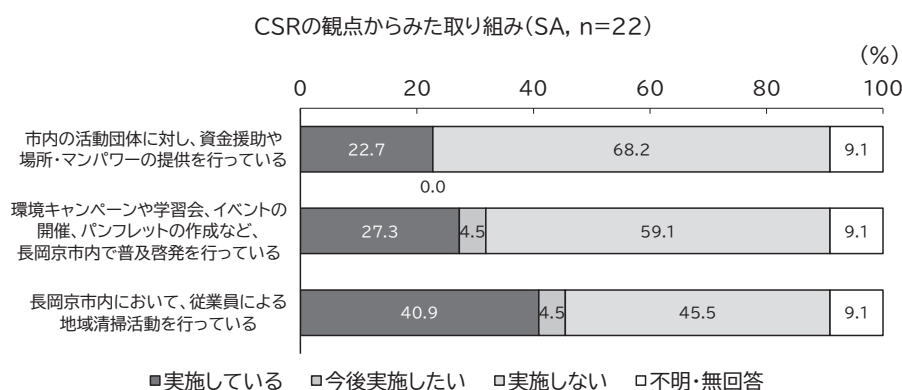
◎ごみ減量に関する取り組み

古紙回収について、「独自にリサイクル業者を活用したい」が最も多くなっています。



◎長岡京市の環境政策や、地域と事業者との関わり

CSRの観点からみた取り組みについて、「長岡京市内において、従業員による地域清掃活動を行っている」の「実施している」が多くなっています。「市内の活動団体に対し、資金援助や場所・マンパワーの提供を行っている」の「実施しない」が多くなっています。



4 策定経過等

(1) 策定経過

	年月日	会議名等	概要
令和元年度	7月9日	第18回長岡京市生活環境審議会	・(諮問)“環境の都”長岡京の実現に向けた長岡京市環境基本計画の改定について ・第三期環境基本計画への改定スケジュールについて ・第三期環境基本計画改定イメージについて
	8月7日	第19回長岡京市生活環境審議会	・環境基本計画の改定についての答申(方向性)について
	11月1日	第20回長岡京市生活環境審議会	・環境基本計画の改定についての答申(方向性)について
	11月12日	方向性の答申	・審議会を代表し、会長より方向性に関する答申書の受け渡し→計画開始期1年前倒しの決定
令和2年度	7月14日	第22回長岡京市生活環境審議会	・計画改定作業部会の設置 ・計画改定スケジュール及び今年度ゴールイメージの共有について ・市民等アンケートについて
	8月21日	長岡京市生活環境審議会第1回計画改定作業部会	・市民等アンケートについて ・計画の章立て、構成について ・気候変動への適応策について ・地域環境見える化プロジェクトについて
	9月15日 ～9月30日	市民等アンケート	
	1月25日	長岡京市生活環境審議会第2回計画改定作業部会	・市民等アンケートの結果報告について ・第三期環境基本計画 骨子について ・気候変動への適応策について
	3月11日	第24回長岡京市生活環境審議会	・第三期環境基本計画 骨子について
令和3年度	6月1日 ～6月7日	市長と語る 対話ウィーク	・「“環境の都”長岡京の実現に向けて、気になること、必要だと思うこと」をテーマに意見募集
	6月27日	自分ごと化会議	・環境基本計画をテーマに意見交換
	7月20日	第25回長岡京市生活環境審議会	・第三期環境基本計画の本編について

令和3年度	8月5日	ステップアップ・チャレンジ会議 (省エネ推進チーム・環境検定チーム合同会議)	・第二期環境基本計画での両チームの活動総括 ・第三期環境基本計画に向けて
	9月29日	長岡京市生活環境審議会第3回計画改定作業部会	・第三期環境基本計画の本編について
	11月22日	第26回長岡京市生活環境審議会	・第三期環境基本計画の本編について ・第三期環境基本計画の実施計画について
	12月8日～1月7日	意見公募（パブリックコメント）	
	2月4日	第27回長岡京市生活環境審議会	・意見公募（パブリックコメント）の結果及び回答について ・第三期環境基本計画の本編について ・第三期環境基本計画の実施計画について
	3月4日	計画本編の答申	・審議会を代表し、会長・副会長より、計画本編に関する答申書の受け渡し

※環境基本計画の改定に係る会議及びその内容に限定して記載しています。

(2) 長岡京市生活環境審議会 諮問

元長環政第70号
令和元年7月9日

長岡京市生活環境審議会
会長 白石 克孝 様

長岡京市長 中小路 健吾

“環境の都”長岡京の実現に向けた長岡京市環境基本
計画の改定について（諮問）

みだしのことについて、長岡京市生活環境の向上に関する基本条例第11条の規定に
基づき、下記のとおり諮問しますので、御審議くださいますようお願いいたします。

記

諮問事項：「長岡京市環境基本計画」の改定について

【諮問の理由】

平成13年3月に策定しました2030年を目標年次とする長岡京市環境基本計画は、市民参加による計画づくりの先駆けとして多くの市民が計画策定に関わり、「初動期」の計画として、市民による環境活動が盛んに行われた結果、多岐にわたるプロジェクトについて一定の成果を得ることができました。

また、平成25年3月に改定した第二期環境基本計画においても、「市民参画」による計画策定の流れを尊重し、市民アンケートをはじめ、環境活動団体へのヒアリング、無作為抽出の市民が参加した「長岡京市まちづくりセッション」といった先進的な取り組みを交え、目標達成年度を平成34年度とする計画を策定しました。

計画策定以降、目標達成を着実なものとするため、おおよそ3年ごとの個別具体的な実施計画を策定するとともに、生活環境審議会において進捗状況の確認と評価を行ってきたところです。

なお、平成22年3月に策定した「長岡京市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～持続可能な未来（アース）プラン～」では、2030年における市域の温室効果ガスの排出量を1990年比で40%削減することを定めるとともに、その中間年である2020年までに25%の削減を達成することを目指して、市民、事業者、諸団体と行政がそれぞれの主体者として様々な取り組みを進めていくこととしています。

しかしながら、平成23年の東日本大震災に伴い、わが国のエネルギー政策の転換を行う中にあっても、再生可能エネルギー導入による自給率向上が十分でなく、天然ガスなどの化石燃料によるエネルギー供給量が増加しました。その結果、電力使用量は減少傾向となっているものの、温室効果ガス排出量はほぼ横ばいの状況で推移しています。今後も、電気の排出係数はまだまだ高い値を推移すると見込まれており、近年多発する災害に備える意味でも、自立分散型の再生可能エネルギーのさらなる導入促進と合わせ、省エネ手法の取り組みを推進していかなければならないものと考えております。

また、近年その実態が明らかとなってきたマイクロプラスチックの問題など、地球環境の変化は予断を許さない状況です。

現計画期間において、脱炭素型社会の実現に向けた国際合意であるパリ協定やSDGsなど政府や地方自治体、また企業などそれぞれの立場や役割の中で目的達成のために、現状を把握し、解決に向けた歩みを計画的に推進していくことが求められています。

また、昨年12月には気候変動適応法が施行されるなど、総合的かつ早急な地球温暖化対策を着実に実施していく必要があることを踏まえ、貴審議会から本計画の改定について答申をいただきたく、諮問いたします。

(3) 長岡京市生活環境審議会 答申（方向性）

令和元年 11 月 12 日

長岡京市長 中小路 健吾 様

長岡京市生活環境審議会
会長 白石 克孝

“環境の都”長岡京の実現に向けた長岡京市環境基本
計画の改定について（答申）

令和元年 7 月 9 日付け元長環政第 70 号で諮問のありました、長岡京市環境基本計画の改定について、基本的な考え方や方向性について審議し、とりまとめましたので別添のとおり答申します。

※別添とされた内容については、次項の本編の答申をいただく過程で精査され、本編へ包含されたため省略しています。計画開始期を 1 年前倒すことについても、この方向性の答申の中で示されました。

(4) 長岡京市生活環境審議会 答申（本編）

令和4年3月4日

長岡京市長 中小路 健吾 様

長岡京市生活環境審議会
会長 白石 克孝

長岡京市第三期環境基本計画案について（答申）

令和元年7月9日付け元長環政第70号で諮問のありました件について、長岡京市第二期環境基本計画を改定し、長岡京市第三期環境基本計画案を作成しましたので、答申します。

第三期環境基本計画案は、平成13年3月に第一期の環境基本計画が策定されたときから、将来都市像として掲げている「つむぎ織りなす“環境の都”長岡京」を実現するため、おおむね令和12年度までに取り組むべき施策の基本的方針を盛り込んだものです。計画改定案の作成にあたっては、平成25年3月の第二期環境基本計画への改定以後、めまぐるしく変化した国内外の環境をめぐる動向を考慮しながら、議論を進めてまいりました。

特に、平成27年に採択された国際的枠組みである「パリ協定」の実現、2050年脱炭素社会の実現は、早急に取り組むべき課題です。そのため、長岡京市においても、「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言し、一層取り組みを強化することが必須であると考えます。脱炭素社会の実現には、これまでの常識の変革が必要と言われますが、新型コロナウイルスをきっかけに生まれた「新しい生活様式」という考え方は、気候変動対策にも通じるものがあると考えます。

その他にも、食品ロス・プラスチックごみの削減や、生物多様性の保全、グリーンインフラの活用など、近年特に顕在化してきた環境課題に対処することを盛り込んでいます。

また、持続可能な社会の実現には、環境分野だけでなく、経済や社会を含めた統合的な向上が求められているところであり、そのことは、平成27年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の理念でもうたわれています。第三期環境基本計画案では、SDGsの視点を取り入れ、「環境への貢献をした上で経済・社会へも貢献する」といった考えのもと、分野横断的な視点・施策も取り入れています。

こうした施策の実行にあたって、市民・団体・事業者等とのパートナーシップが重要であることは、第一期、第二期を通して訴えてきたことです。第三期においても、そのことを引き続き重要視しています。

今後、この計画案の内容を十分尊重され、長岡京市の第三期環境基本計画として結実されることを望みます。

(5) 長岡京市生活環境審議会委員（令和4年3月現在）

選出区分	氏名	所属	役職
学識 経験者	◎ しらいし 白石 かつたか 克孝	龍谷大学	副学長 政策学部 教授
	○ おばた 小幡 のりお 範雄	立命館大学	政策科学部 特任教授
	おくたに 奥谷 みほ 三穂	京都府立大学	京都地域未来創造センター COC+ 客員教授
	まとば 的場 のぶたか 信敬	龍谷大学	政策学部 教授
	やまかわ 山川 はじめ 肇	京都府立大学大学院	<臨時委員> 生命環境科学研究科 教授
関係団体	あなざわ 穴澤 ひろゆき 裕之	長岡京市経済協議会	会員
	たにむら 谷村 まみ 真見	長岡京市商工会	女性部 副部長
	やぎ 八木 ひとみ 仁美	長岡京市自治会長会	会計監査
	せんどう 仙道 ようへい 洋平	連合京都乙訓地域協議会	雇用支援機構労働組合 京都支部京都分会 副分会長
	たきがわ 瀧川 まさこ 正子	長岡京市女性の会	会長
	こうさか 高坂 ようこ 洋子	フードバンク長岡京	委員
	かずい 数井 みちこ 美智子	長岡京市環境の都づくり会議	副代表
	とくち 徳地 なおこ 直子	西山森林整備推進協議会	会長
	きはら 木原 ひろたか 浩貴	京都府地球温暖化防止活動推 進センター	副センター長
	こばやし 小林 しげる 茂	長岡京市地産地消推進協議会	<臨時委員> 会長
市民公募	いけだ 池田 まさゆき 真之	市民公募	
関係行政 機関	いがらし 五十嵐 まゆみ 真由美	京都府乙訓保健所	技術次長兼環境衛生課長

※「◎」印が会長、「○」印が副会長。

Blank lined area for writing notes.



長岡京市第三期環境基本計画

令和4年3月

長岡京市 環境経済部 環境政策室

〒617-8501 京都府長岡京市開田1丁目1番1号

電話：075-951-2121（代）